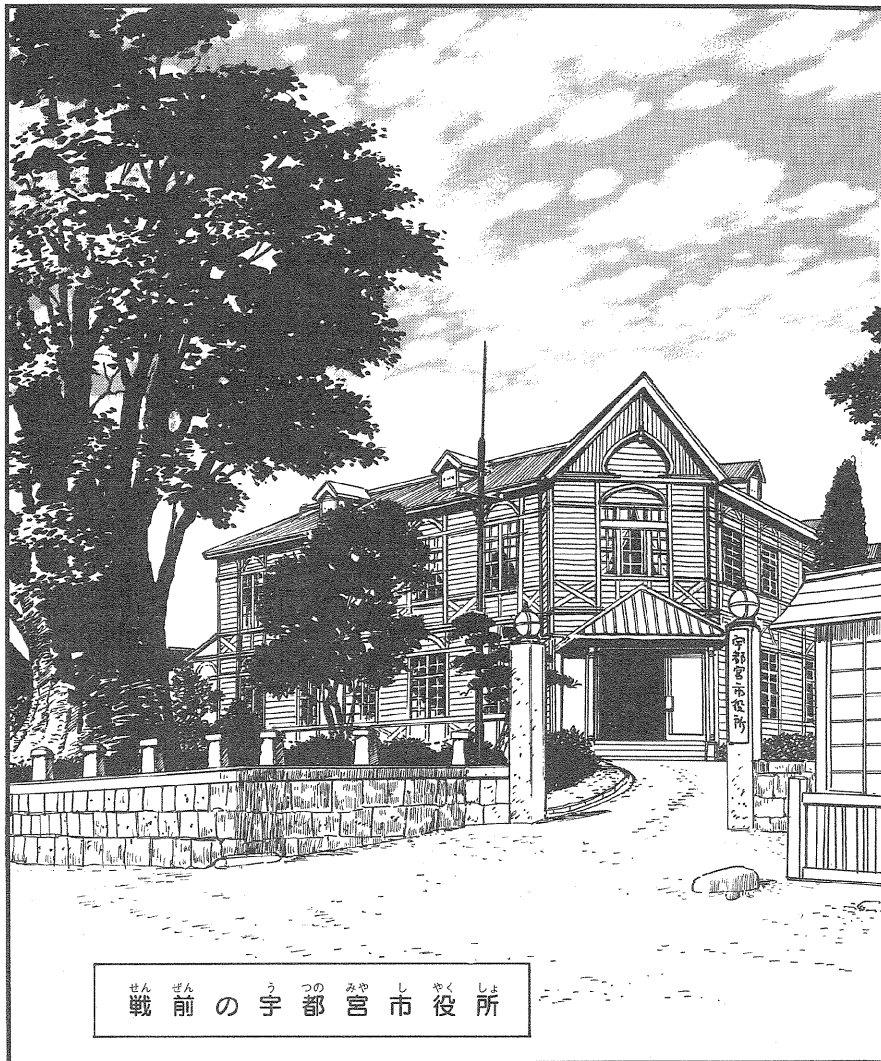
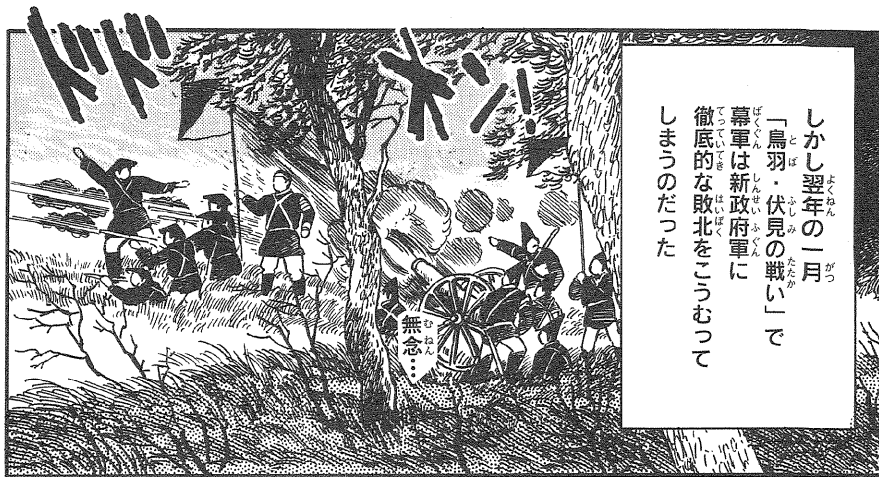
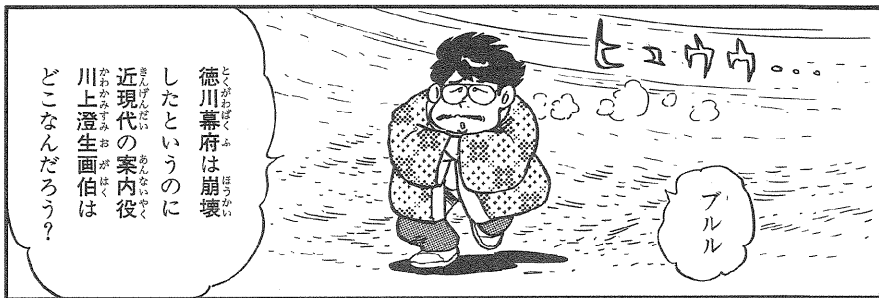


だい しょう きんげんだい  
第四章・近現代

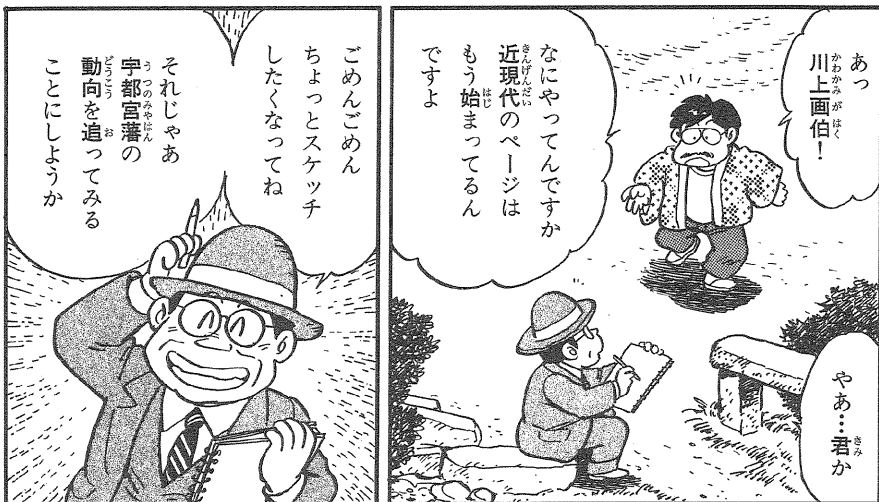




しかし翌年の一月  
「鳥羽・伏見の戦い」で  
幕軍は新政府軍に  
徹底的な敗北をこうむって  
しまつたのだ



徳川幕府は崩壊  
したというのに  
近現代の案内役  
川上澄生画伯は  
どこなんだろう？



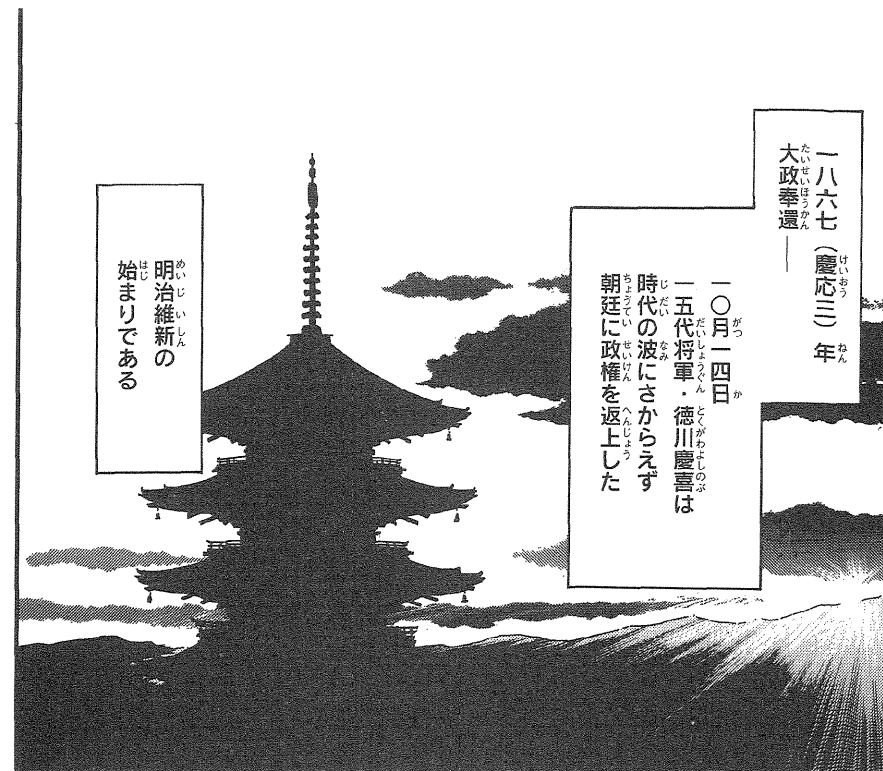
ごめんごめん  
ちよつとスケッチ  
したくなつてね

それじゃあ  
宇都宮藩の  
動向を追ってみる  
ことにしようか

なにやつてんですか  
近現代のページは  
もう始まつてら  
んですよ

あつ  
川上画伯！

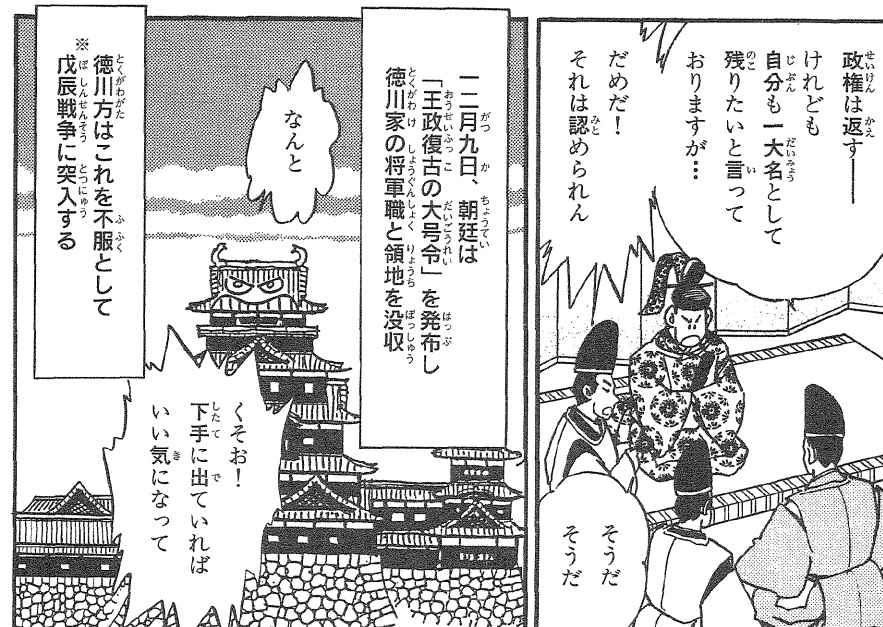
やあ…君か



一八六七（慶応三年）  
大政奉還

一〇月十四日  
一五代将軍・徳川慶喜は  
時代の波にさらえず  
朝廷に政権を返上した

明治維新の  
始まりである



政権は返す  
けれど  
自分も一大名として  
残りたいと言つて  
おりますが…  
だめだ！  
それは認められん  
そうだ  
そうだ

二月九日、朝廷は  
「王政復古の大号令」を發布し  
徳川家の将軍職と領地を没収

なんと

徳川方はこれを不服として  
戊辰戦争に突入する

くそお！  
下手に出ていれば  
いい気になつて

一八六八（慶応四年）年  
宇都宮城



朝廷に對立すること  
徳川家に敵對すること  
共にできぬ…

朝廷と幕府との仲を  
とりもとうとした  
宇都宮藩主・戸田忠友は  
幕府の役職を辞任し  
京都に向かっていたが



三月一五日、新政府によって  
近江大津（滋賀県）の  
乗念寺において謹慎を  
命じられた

え!? 藩主が  
捕まっちゃったの？  
これは困ったぞ



藩主不在の宇都宮城では  
県六石を中心とする尊王派と  
※佐幕派の藩士との間で  
激しい論議がくり返されたが  
どちらの側に立場をとるか  
意見は一致しなかった

幕府の崩壊は  
もはや歴然!

ここはすみやかに  
藩論を統一し  
※東山道総督府の  
御出座を待つべき



※中老・県六石

わが藩は  
徹底抗戦  
あるべし!

そうだつ!  
譜代大名の意地を  
発揮し、断固朝廷軍を  
うち払うべし!



※中老…家老職につく藩職

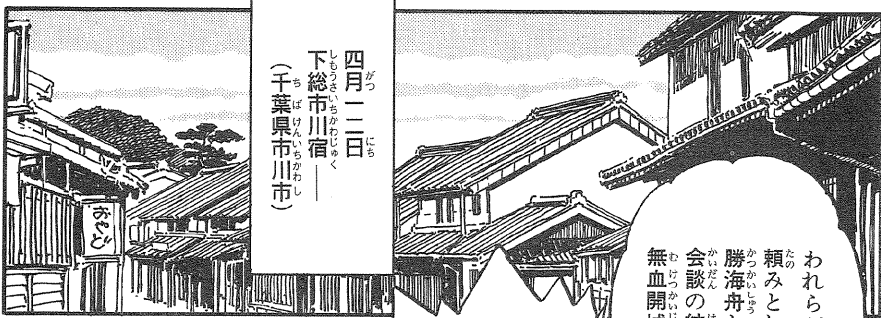
※佐幕派：幕府を支持し、援助した勢力 ※東山道総督府：旧幕府軍とたたかうため中山道（旧東山道）を進軍してきた新政府軍の指導部



旧幕府軍は  
その隙をみごとに  
突いたんだ

うん、明治政府も  
できたてのホヤホヤで  
軍隊も統制力のない  
雑軍だったんだよ

城兵はわずかに  
四〇〇人程度…か  
こんな手薄な兵力じゃ  
宇都宮城は当然  
狙われますよな



四月二二日  
下総市川宿  
——  
(千葉県市川市)

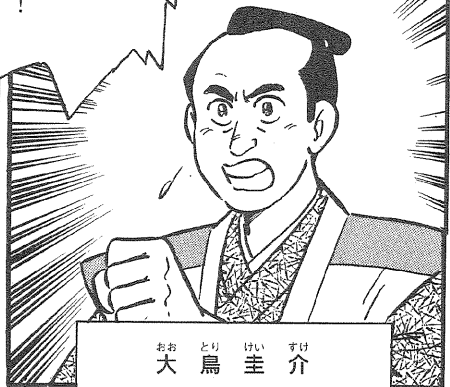
われらが最後の  
頼みとした江戸城は  
勝海舟と西郷隆盛の  
会談の結果  
無血開城と決まった

よって我らは  
家康公を祭る  
日光山にたてこもり  
新政府軍と決戦すべし！



その先頭  
この土方が  
つとめましよう

三 歳 方 土



介 圭 鳥 大

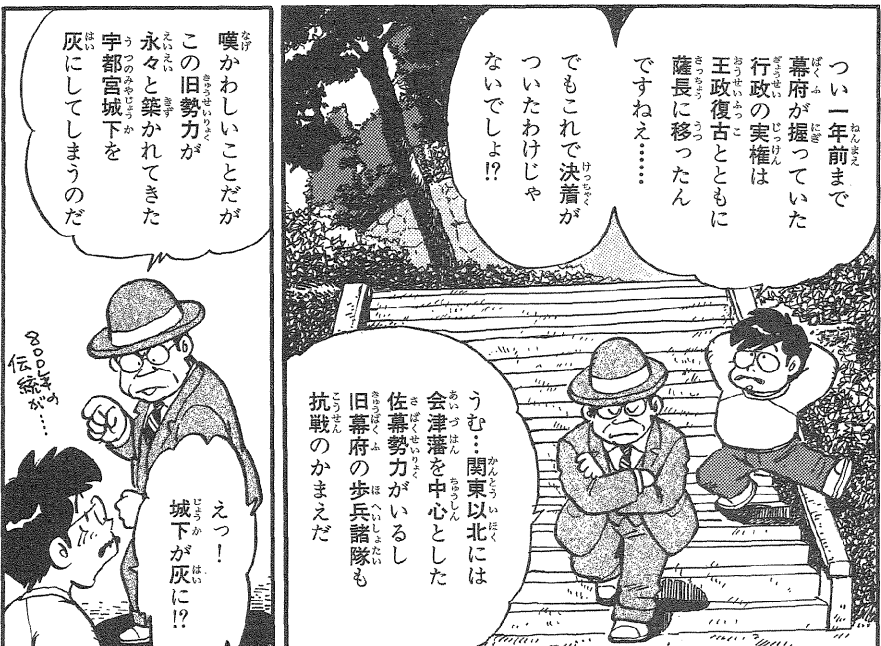


これを受けて  
総督府（新政府）は  
大津で謹慎中の  
忠友に代わって  
隠居中の戸田忠恕を  
藩主に復帰させた

けんけん  
かくかく

議論はまとまらなかつたが  
県六石は板橋宿（東京都  
板橋区）に進出していた  
東山道総督府に出向き  
宇都宮城への援軍を  
要請する

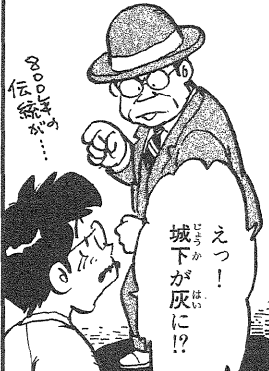
新勢力に  
さからうのは  
得策ではない



つい一年前まで  
幕府が握っていた  
行政の実権は  
王政復古とともに  
薩長に移ったん  
ですなあ……  
でもこれで決着が  
ついたわけじゃ  
ないでしょ！

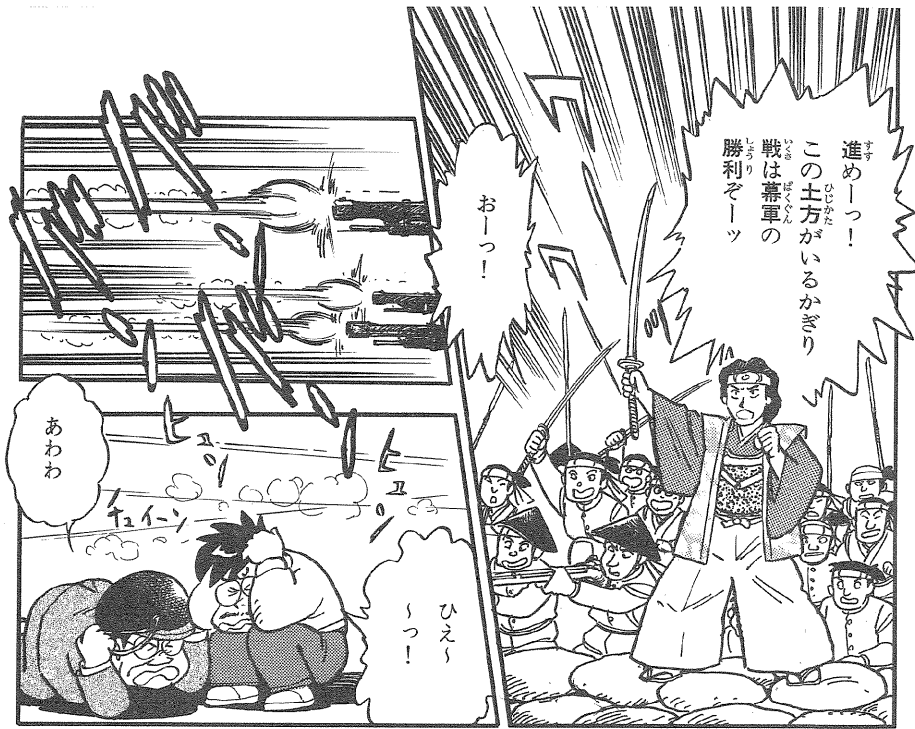
嘆かわしいことだが  
この旧勢力が  
永々と築かれてきた  
宇都宮城下を  
灰にしてしまうのだ

うむ…関東以北には  
会津藩を中心とした  
佐幕勢力がいるし  
旧幕府の歩兵諸隊も  
抗戦のかまえた



えっ！  
城下が灰に！



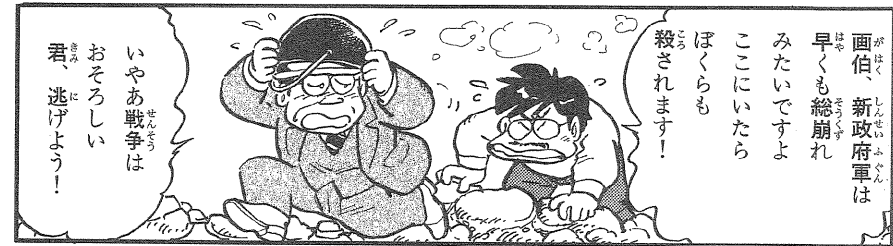


進めーっ！  
この土方がいるかぎり  
戦は幕軍の  
勝利ぞーっ

おーっ！

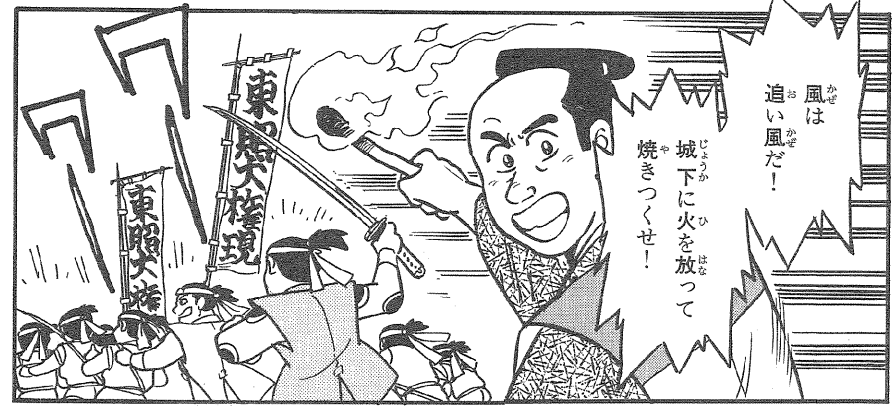
ひえー  
っ！

あわわ



画伯、新政府軍は  
早くも総崩れ  
みたいですよ  
ここにいたら  
ほくらも  
殺されます！

いやあ戦争は  
おそろしい  
君逃げよう！



風は  
追いかぜ  
追い風だ！  
城下に火を放って  
焼きつくせ！



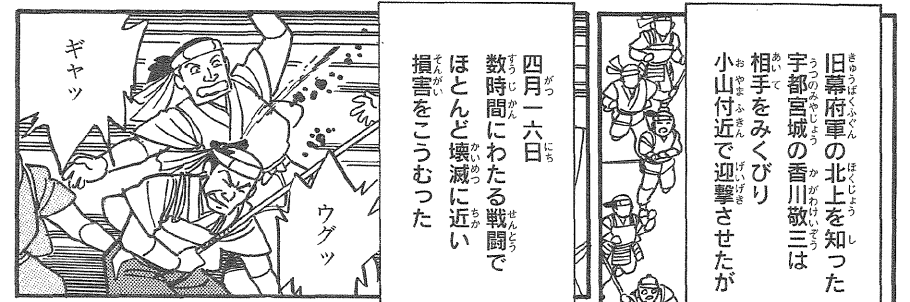
ゲツ全軍あわせて  
二五〇〇人近く…

それも大将格に  
新選組の鬼副長  
土方歳三や

日露戦争では  
名将といわれる  
立見尚文將軍なんて  
戦上手もいる

そればかりでは  
ないんだよ君…

あ…また  
いやな予感



四月一六日  
数時間にわたる戦闘で  
ほとんど壊滅に近い  
損害をこつむつた

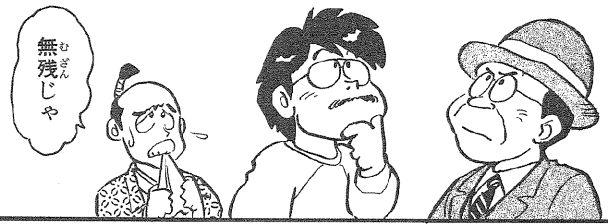
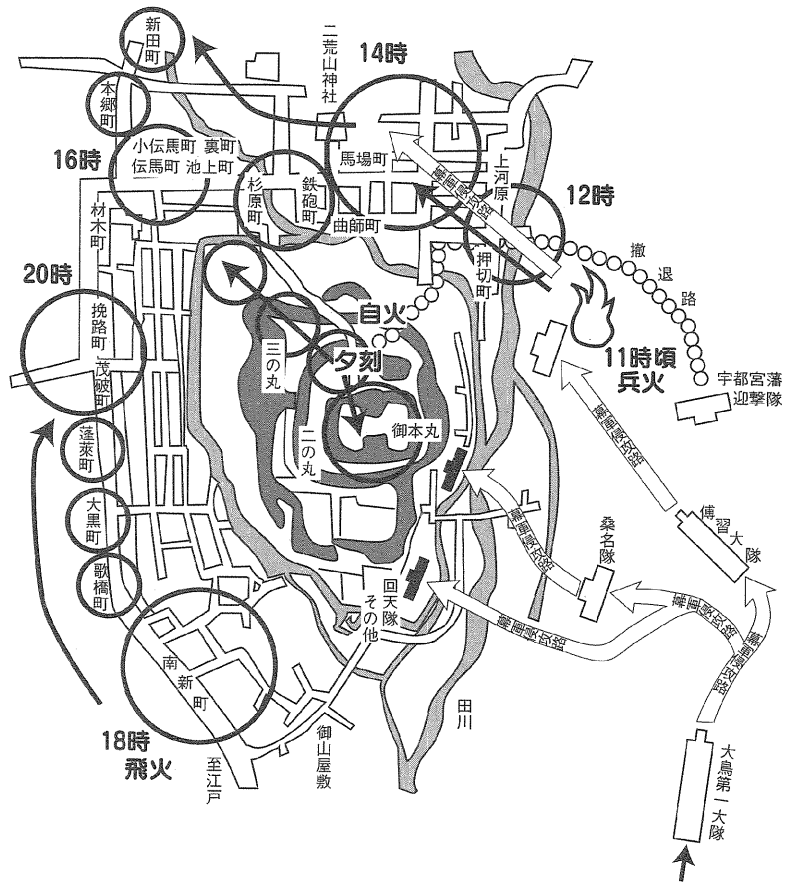
旧幕府軍の北上を知った  
宇都宮城の香川敬三は  
相手をみくびり  
小山付近で迎撃させたが



他藩からの  
応援の兵隊が  
次々にやられて  
宇都宮城は  
どうすんだろ

それを  
見とけよう  
じゃないか

ぼしんせんそう・うつのみやじょうかしょうぼうず  
戊辰戦争・宇都宮城下焼亡図





多くの人命とともに  
ひとつの城下町が  
完全に消えたん  
ですわ……

宇都宮城攻防の  
死傷者合計三〇〇人以上

城下三〇〇軒のうち  
二四〇軒以上が焼失  
被災者一万一〇〇〇余人



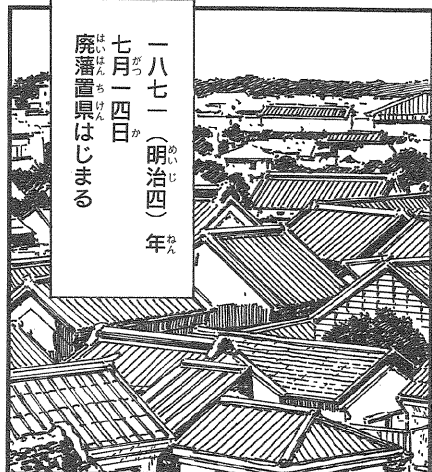
宇都宮の歴史を  
語る文化遺産も  
このとき焼けて  
しまったのか……

戊辰戦争で  
城下町がこれほど  
破壊された例は  
新潟の長岡市  
福島のお津若松市と  
宇都宮市ぐらいの  
ものだろうな



これで本当に  
武士の社会は  
終わりました

※県令になりす  
首長は藩主から  
藩から県に代わり  
地方行政は

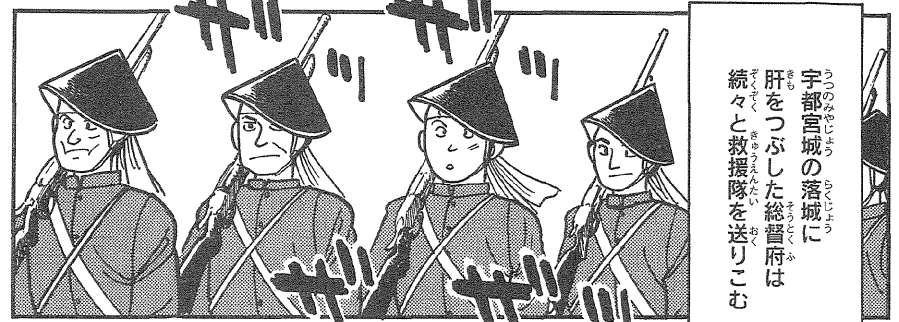


一八七一年（明治四）年  
七月十四日  
廃藩置県はじまる

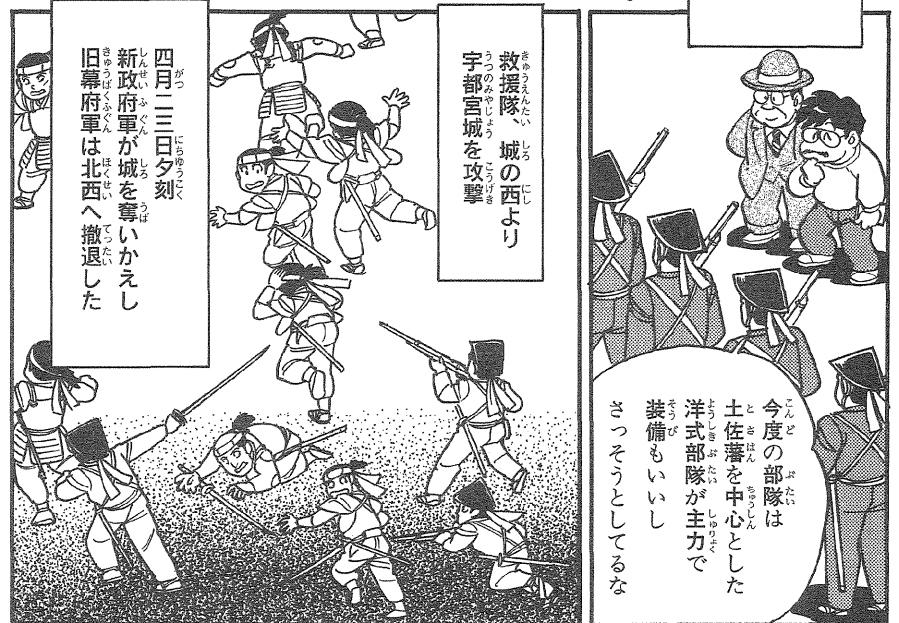


宇都宮藩側の  
死傷者が二四人とは  
……思ったよりも  
少ないですね

新政府軍といつても  
諸藩兵を集めた  
だけの軍隊……他藩の  
参謀や兵士たちには  
城を本気で守ろう  
という熱意は  
なかったんだろうね



宇都宮城の落城に  
肝をつぶした総督府は  
続々と救援隊を送りこむ



救援隊 城の西より  
宇都宮城を攻撃

四月三日夕刻  
新政府軍が城を奪い返し  
旧幕府軍は北西へ撤退した

今度の部隊は  
土佐藩を中心とした  
洋式部隊が主力で  
装備もいいし  
さうさうとしてるな



※神仏分離令…一八六八年新政府により出された布告で、神道を国教とするため神道と仏教が一体となっていたそれまでの神仏習合を禁じたもの

それにしても  
維新の大変革は  
武士だけじゃなく  
僧侶や神官にも  
少なからぬ影響を  
及ぼしたんだよ

※神仏分離令  
です

一八七一  
(明治四)年二月  
神社・寺院の領地は  
府県のものとなり  
一体であった神社と  
寺院が強制的に  
分けられた

二荒山神社でも  
本宮、神楽殿、  
四つの別当寺が廃止され  
社僧は一般人にもどり  
社家の中里、飯田家は  
失業したんだ

そのうえ二荒山神社は  
一八七一年の神社制度で  
国幣中社という位を  
与えられていたんだが

二年後の二月  
日光の二荒山神社が  
突如、国幣中社に昇格し  
宇都宮の二荒山神社は  
県社に降格させられて  
しまったんだ

神  
社  
格  
式  
図

官幣大社—官幣中社—官幣小社—別格官幣社  
国幣大社—国幣中社—国幣小社  
府社—県社—郷社—村社—無格社

1871 (明治4) 年頃の宇都宮県・栃木県

宇都宮県  
日光県  
栃木県  
宇都宮  
吹上県  
佐野県  
冠利県  
館林県(邑楽)  
大田原県  
黒羽県  
喜連川  
鳥山県  
茂木県  
真岡  
壬生県  
栃木

明治生まれの  
ほくにとつちや  
武士社会の呼称より  
新政府の名称の方が  
親しみを覚えるな

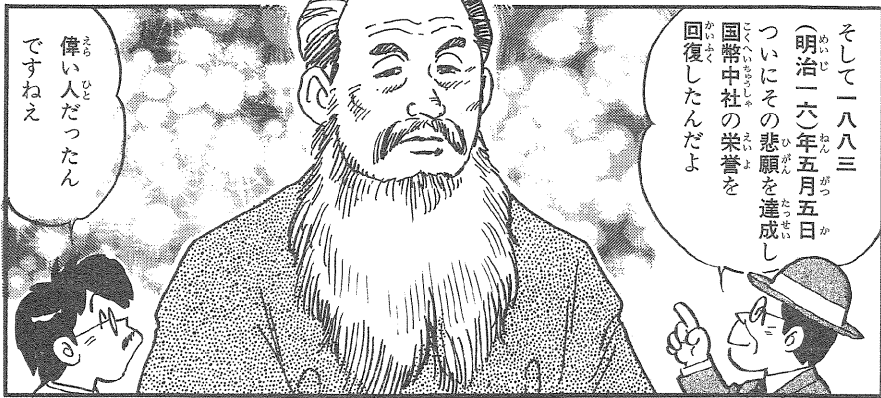
一八七二(明治五)年  
宇都宮城遺構  
二の丸、櫓、土塁、諸門は  
払い下げとなつたり  
こわされた

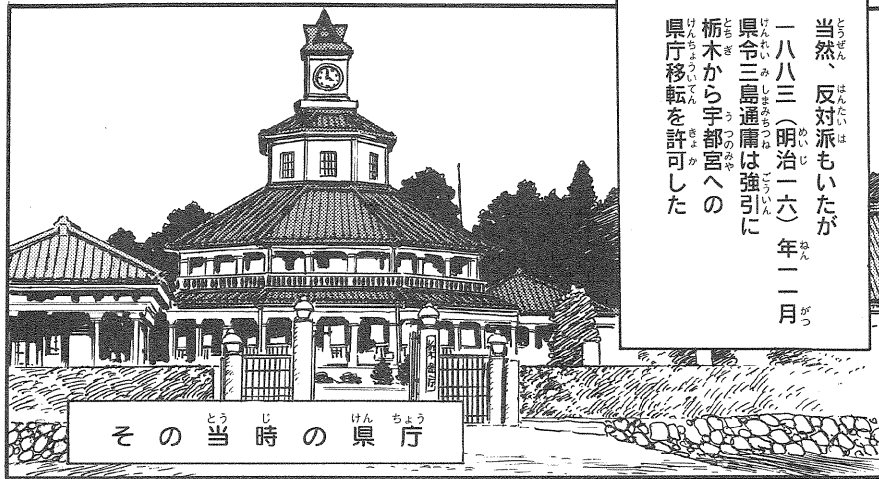
※同年三月、全国各地を  
大区・小区に分ける  
宇都宮は  
六小区(各五〇〇戸)  
に区分けされた

共義病院、宇都宮囚獄  
三等郵便局、第二師団  
七番大隊の駐屯地などが  
旧宇都宮城下に  
次々と建設される

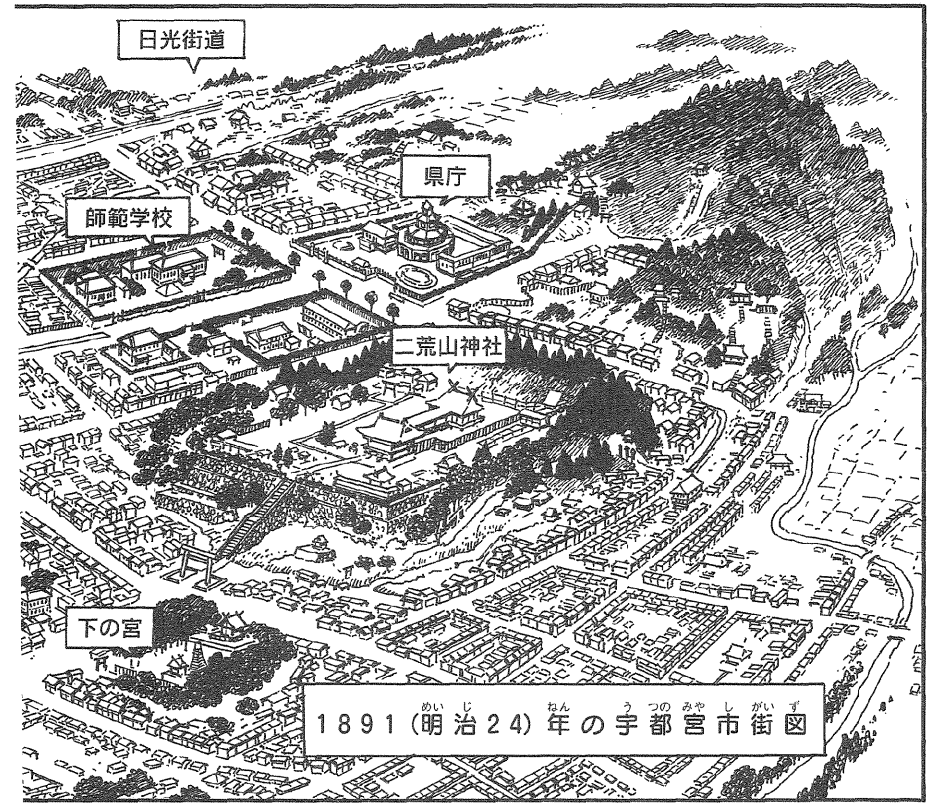
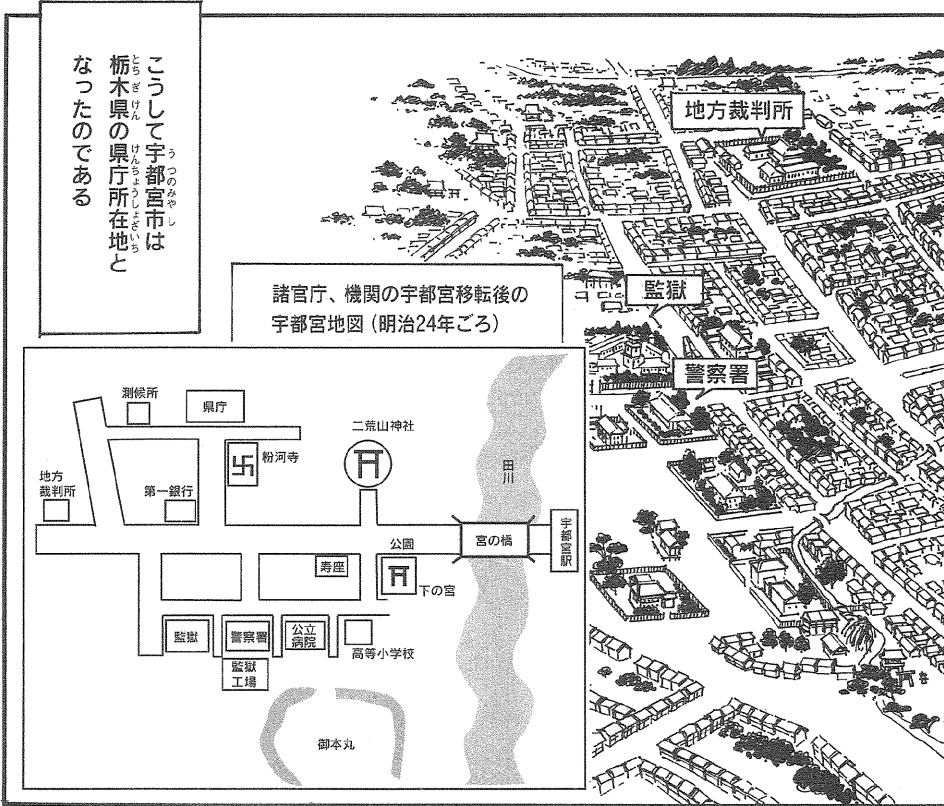
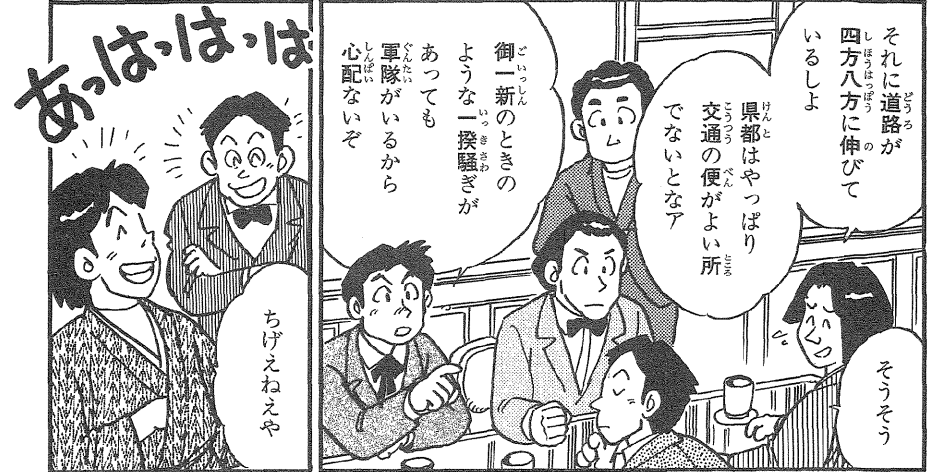
※大区・小区制：明治初年の地方行政制度でいくつかの町村を合わせ小区、数小区を合わせて大区とし、それぞれ戸長や区長を置いた

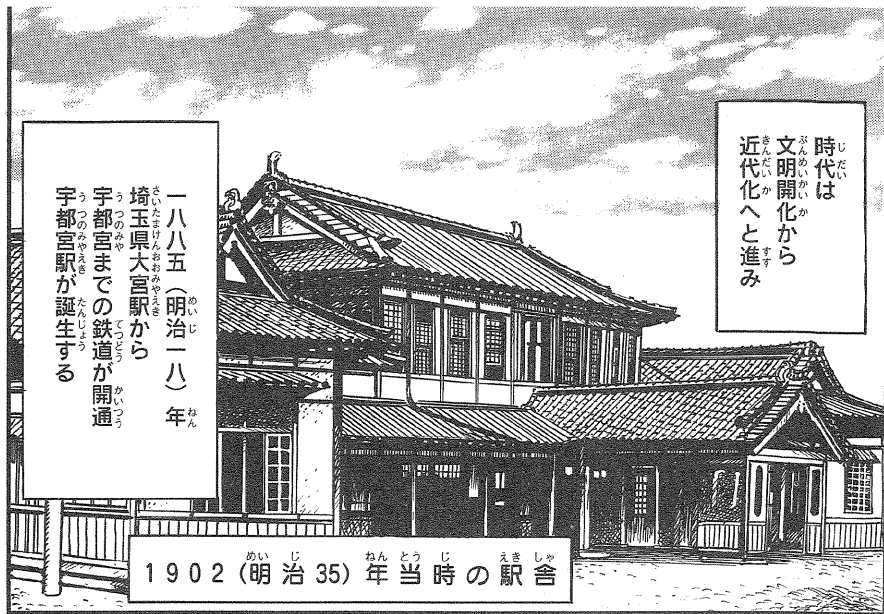






当然、反対派もいたが  
一八八三(明治一六)年二月  
県令三島通庸は強引に  
栃木から宇都宮への  
県庁移転を許可した





時代は  
文明開化から  
近代化へと進み

一八八五(明治一八)年  
埼玉原大宮駅から  
宇都宮までの鉄道が開通  
宇都宮駅が誕生する

1902(明治35)年当時の駅舎

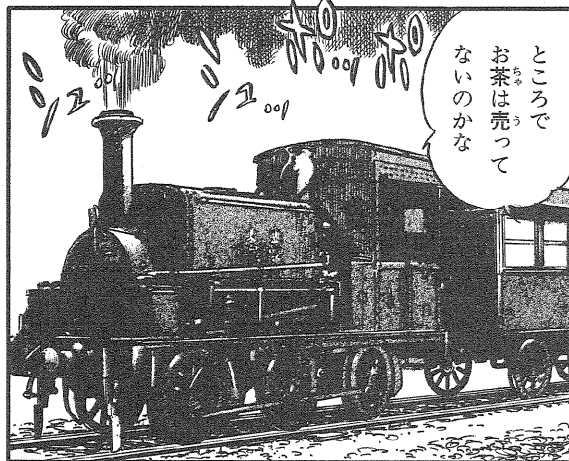


おべんとーっ  
おべんとーっ

あ、画伯  
駅弁らしい  
ですよ

「おべん」  
駅弁の  
はしりだね

塩おにぎりと  
タクアン三切れの  
シンブルなものだ



ところで  
お茶は売って  
ないのかな



まさに食の  
原点ですね

塩おにぎり2つと  
タクアン3切れ

竹の皮にうんである。

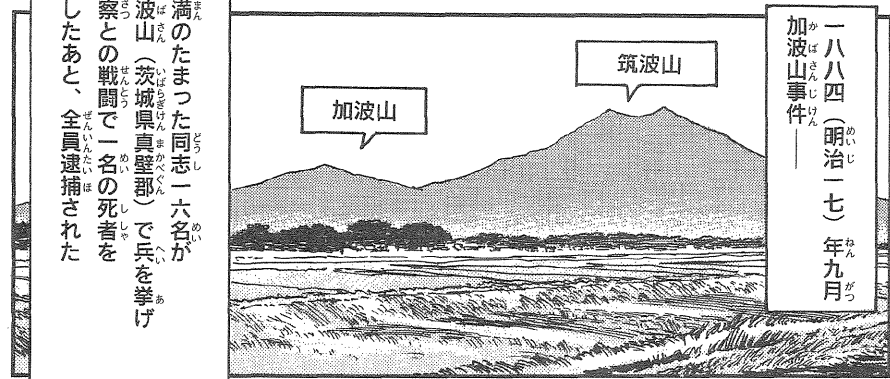


しかしね君  
あまりに強引な  
県令、三島通庸に  
力に対抗しようと  
した自由民権家たちが  
いたんだよ!

なにせ県庁を  
無理やり移したり  
新興州街道  
(旧国道四号)を  
開通させたり

自由民権運動の  
メンバーを弾圧  
したりしたからね

力で対抗!?

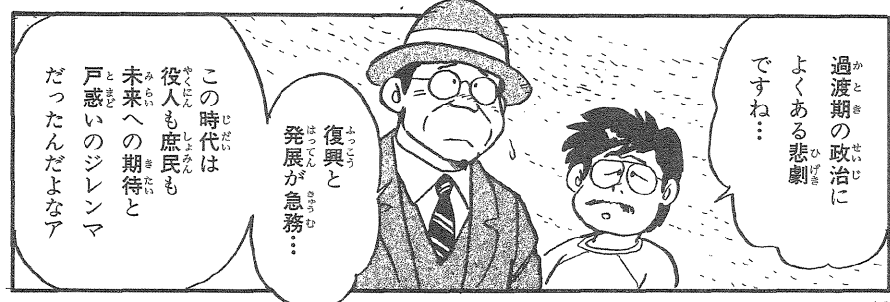


一八八四(明治一七)年九月  
加波山事件

加波山

筑波山

不満のたまつた同志一六名が  
加波山(茨城県真壁郡)で兵を挙げ  
警察との戦いで一名の死者を  
出したあと、全員逮捕された



過渡期の政治に  
よくある悲劇  
ですね...

復興と  
発展が急務...

この時代は  
役人も庶民も  
未来への期待と  
戸惑いのジレンマ  
だったんだよなア





教育機関の開設もそのひとつだ

けどね、初代市長 矢島中に始まった 宇都宮市は

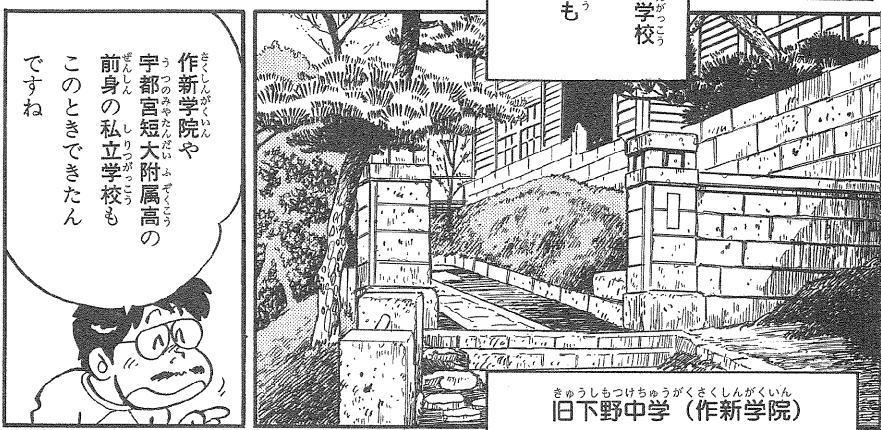
苦勞しながらも 都市としての機能を 拡大していく



東小学校

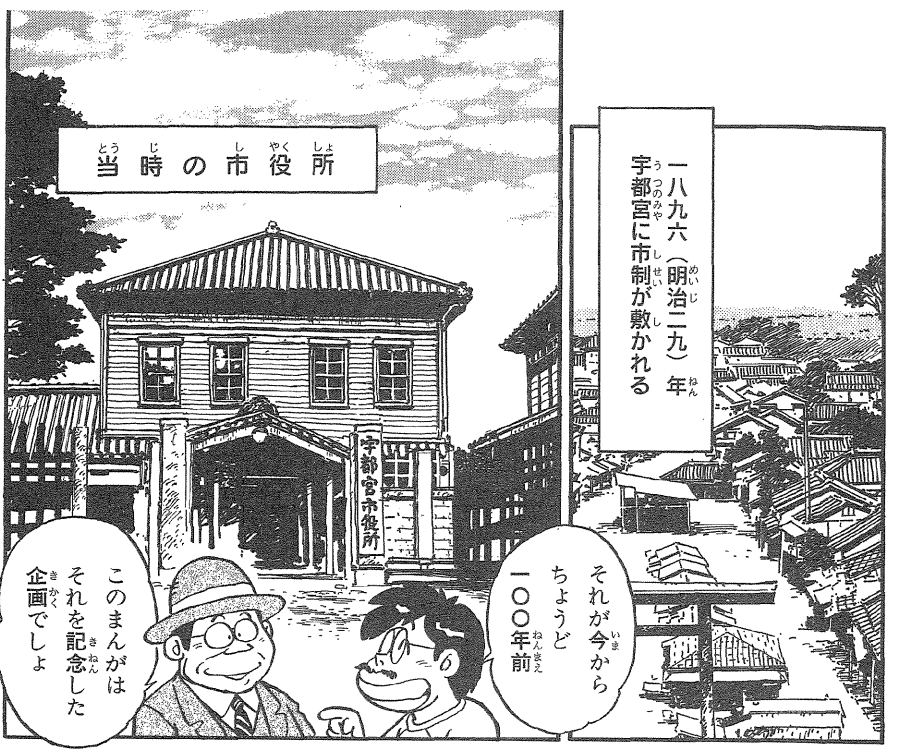
廃藩置県による 藩校の廃止にともない 宇都宮県は 小学校を六つ開校

その後、中学校や師範学校 として市制施行後には 農業・商業・工業学校も 創立されている



旧下野中学 (作新学院)

作新学院や 宇都宮短大附属高の 前身の私立学校も このときできたんです

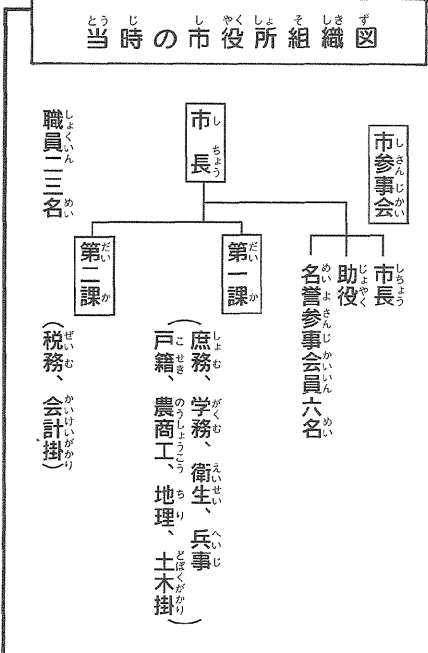


当時の市役所

一八九六(明治二九)年 宇都宮に市制が敷かれる

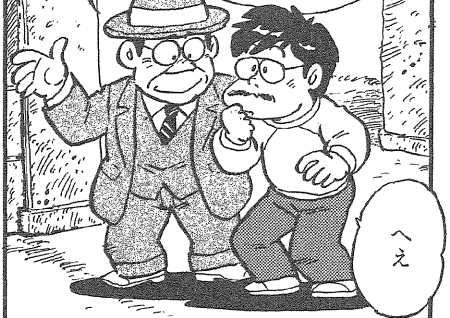
このまんがは それを記念した 企画でしょ

それが今から 一〇〇年前 ちようと



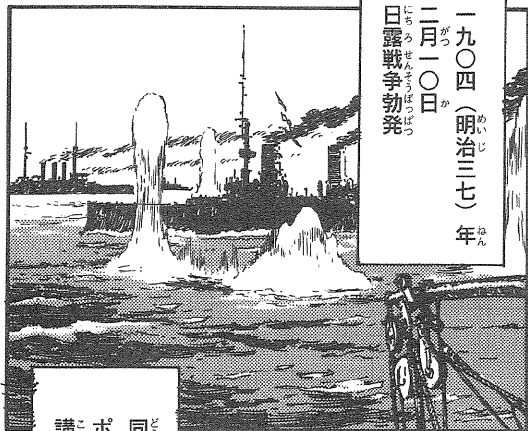
今の市役所は 近代的なビルに入った 機能的な自治組織 だけど、市制が敷かれた頃は 驚くほど簡単な組織 だったんだ

※市長も選挙で 選ばれたわけじゃ ないんだよ



へえ





一九〇四(明治三七)年  
二月一〇日  
日露戦争勃発

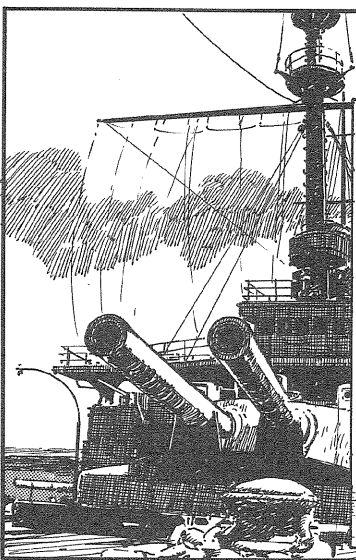


だがね…その時代が  
あったからこそ  
いまの世の中が  
あるってことを  
忘れてはいけないよ

イギリスの軍事評論家  
リデル・ハートは  
「戦争の悲劇を  
くり返さないためには  
戦争を知るべきだ」  
と言っている

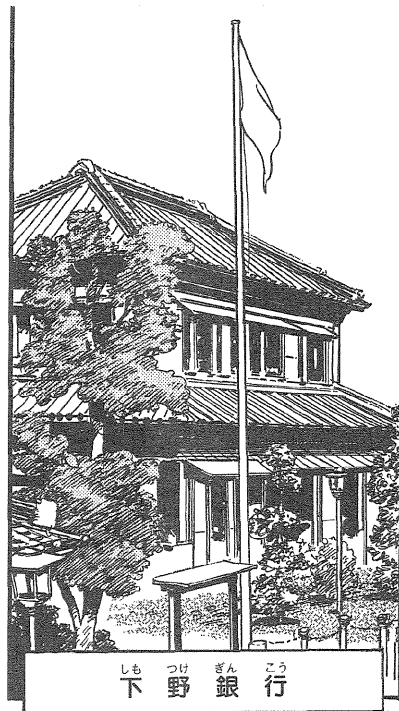
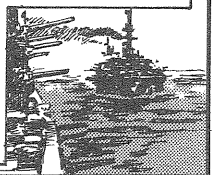


同年九月五日  
ポーツマスにおいて  
講和条約をむすぶ



日露戦争前までの  
日本の平時陸軍兵力は二個師団  
それが戦争による軍備増強で  
一九〇五(明治三八)年には  
正規四個師団と予備二個師団が  
加えられた…一四師団は  
このとき編制された部隊である

当時、世界最強といわれた  
バルチック艦隊を打ちやぶり  
波にのった日本は  
軍拡への道をひた走った



こうぎん銀行  
つげ野下



昔から育ててきた  
地元産業の  
活性化によって

一八九一(明治二四)年の  
下野銀行から  
大正末期の  
下野中央銀行まで  
なんと九行もの銀行が  
設立されてるんだよ

※師団：陸軍を編制する際の一番大きな単位で、師団→旅団→連隊となる



このころの日本は  
欧米列強に遅れまじと  
海外への進出を  
もくろんでいたんだね

そうだね



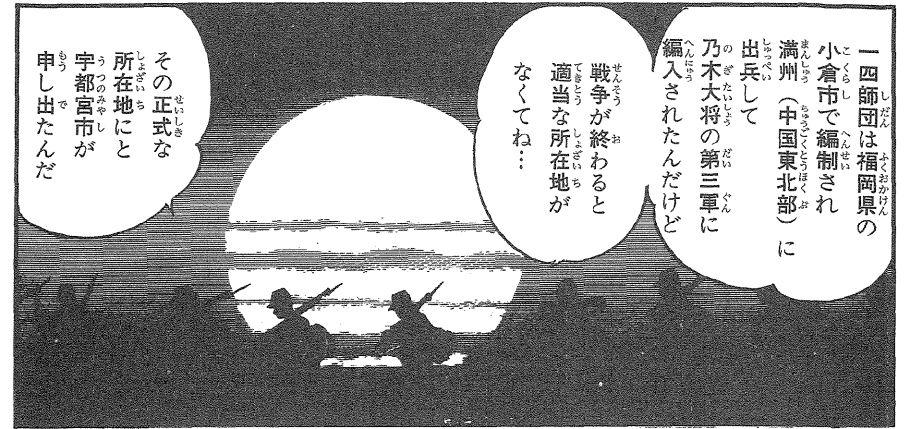
地元産業といえば  
明治初期の製糸工場  
大幡商舎が有名だし

のちに「軍都」の  
いわれとなる  
第一四師団を招いたことも  
見逃せませんね

植民地を得る  
ための軍備拡張って  
わけですか

「軍都」  
こそが本音

※軍都…軍隊が置かれ、それによって栄えた都市



一四師団は福岡県の小倉市で編制され満州（中国東北部）に出兵して乃木大将の第三軍に編入されたんだけど戦争が終わると適当な所在地がなくてね！

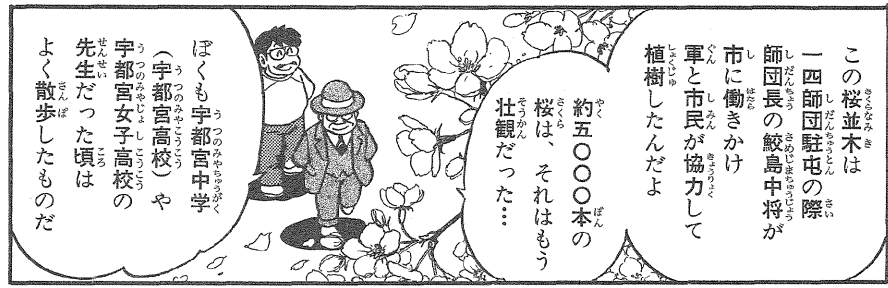
その正式な所在地にと宇都宮市が申し出たんだ



師団長官舎前の軍道は一九五〇年代のなかば頃まで宇都宮唯一の桜の名所として有名だった通りでね

その名残が「桜通り十文字」という名前で残ってるんだ

知ってますよ桜という町名もそうでしょう



この桜並木は一四師団駐屯の際師団長の殿高中将が市に働きかけ軍と市民が協力して植樹したんだよ

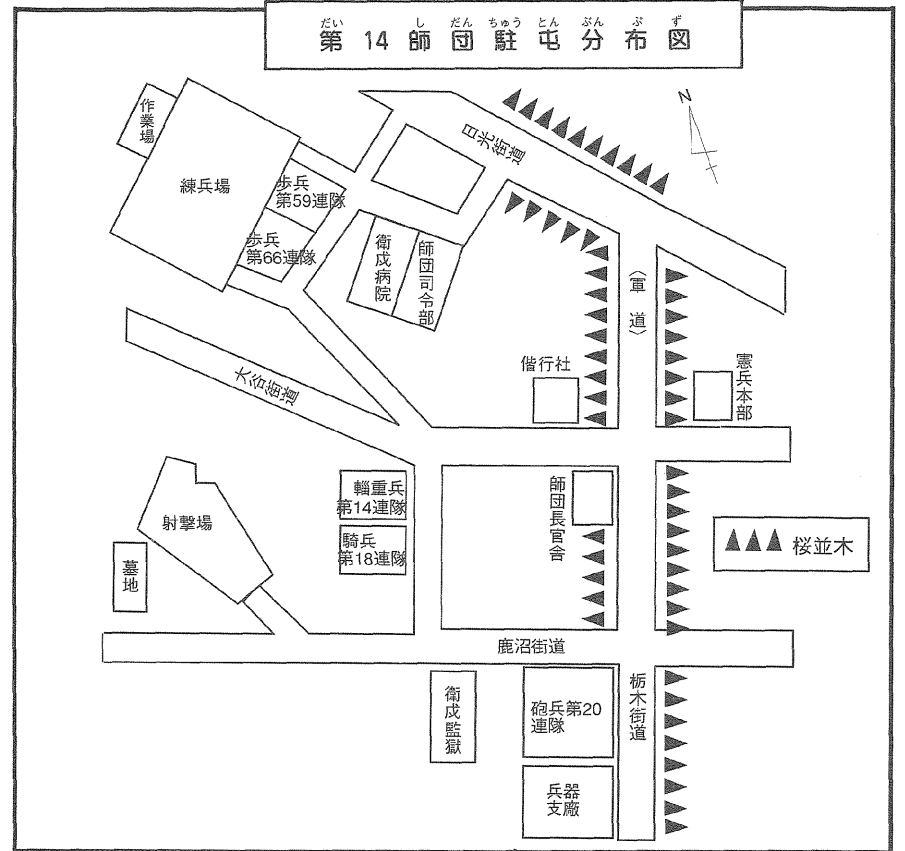
約五〇〇〇本の桜は、それはもう壮観だった...

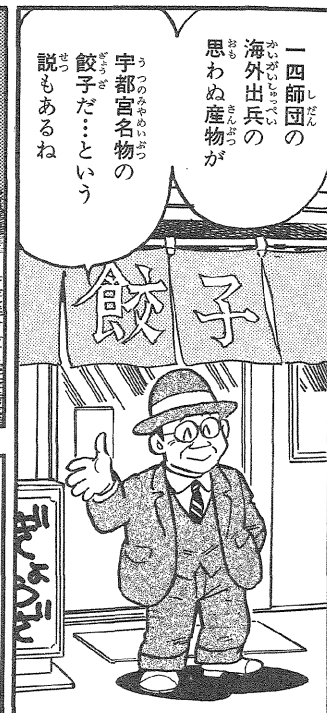
ほくも宇都宮中学（宇都宮高校）や宇都宮女子高校の先生だった頃はよく散歩したものだ



それが書虫にやられたり道路拡張のためとはいえ一本残らず切り倒されたとは残念ですね

これも時代の流れ...人と馬が主体の道からマイカーやトラックが主体の道に変わったということじゃね









しまいには  
深刻な労働争議に  
なったのだよ



現場の人間は  
いつも貪乏くじを  
引くんですね



しかし  
その一方では

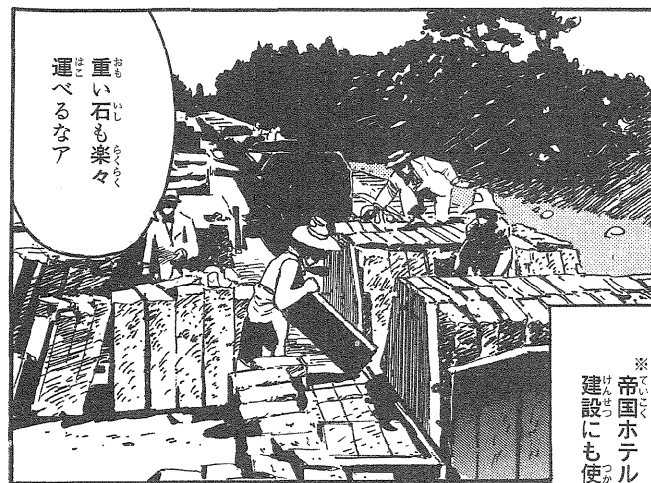
※第一次世界大戦後の  
大恐慌の不況の中  
職工たちは大谷石材  
労働組合を組織して  
ストを決行……

もうどれれも  
オレにオレに  
オレにオレに



一四師団が来て  
人口が増え、消費の増えた  
大正期の宇都宮市では  
同時に、それにもなう  
いろいろな問題をかかえる  
こととなった……

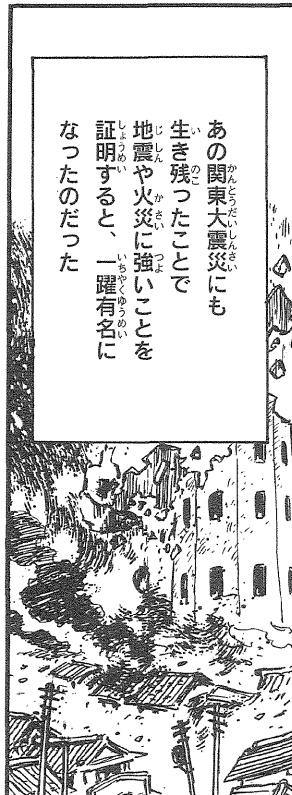
住宅問題、就職問題、  
教育問題……そして  
伝染病対策である



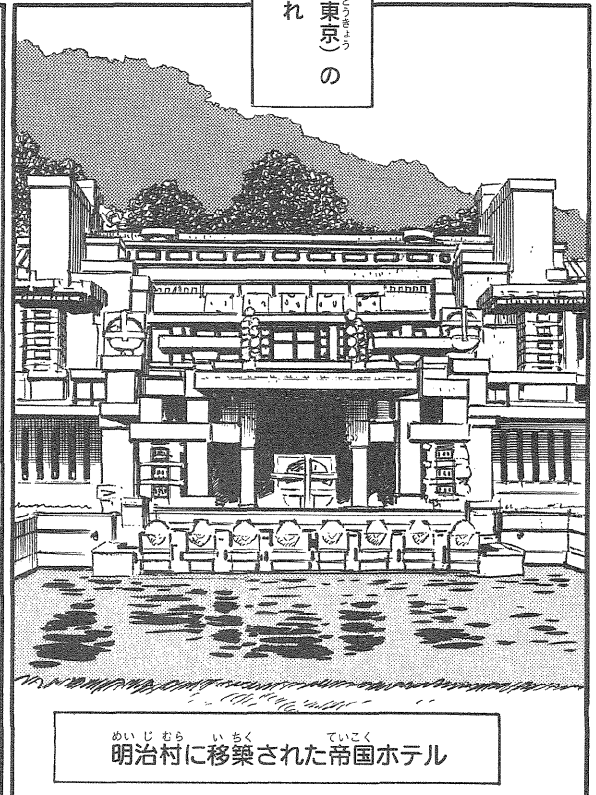
重い石も楽々  
運べるなア

明治の中ころ  
鉄道が引かれたことにより  
長距離輸送が可能となって  
全国に販路を広げた大谷石は

※帝国ホテル（東京）の  
建設にも使われ

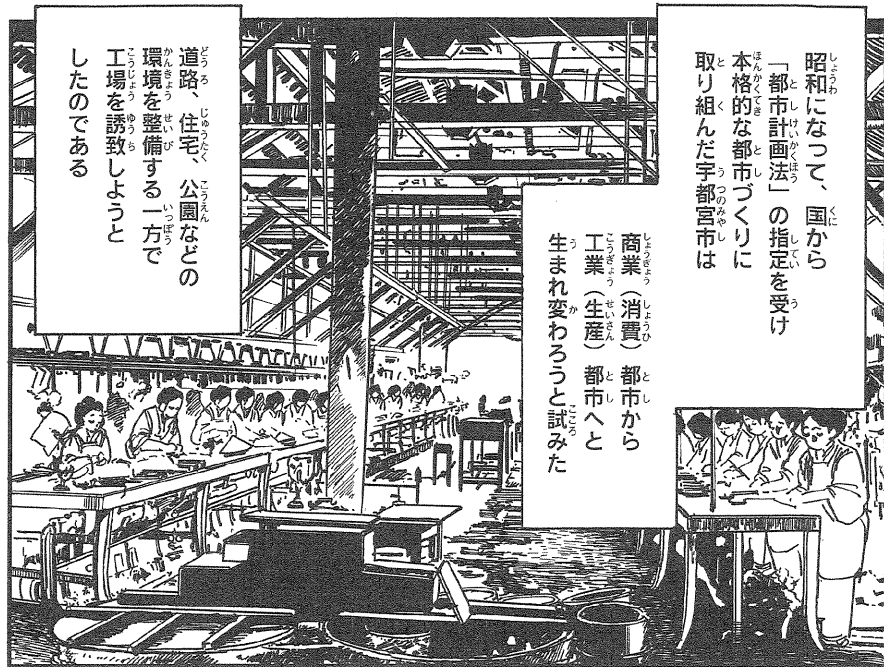


あの関東大震災にも  
生き残ったことで  
地震や火災に強いことを  
証明すると、一躍有名に  
なったのだった



めいじむら いちく ていこく  
明治村に移築された帝国ホテル





道路、住宅、公園などの環境を整備する一方で工場を誘致しようとしたのである

昭和になって、国から「都市計画法」の指定を受け本格的な都市づくりに取り組んだ宇都宮市は

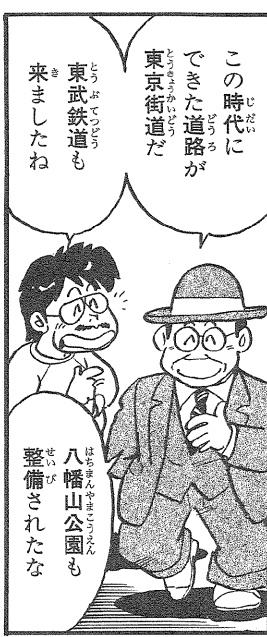
商業（消費）都市から工業（生産）都市へと生まれ変わったと試みた



しかし…市の計画は一部具体化したものの戦争が始まり実現はしなかった……

そして時代はまさに洋風建築の建設ラッシュだ

まつがみねきょうかい 松が峰教会



この時代にできた道路が東京街道だ  
東武鉄道も来ましたね

八幡山公園も整備されたな

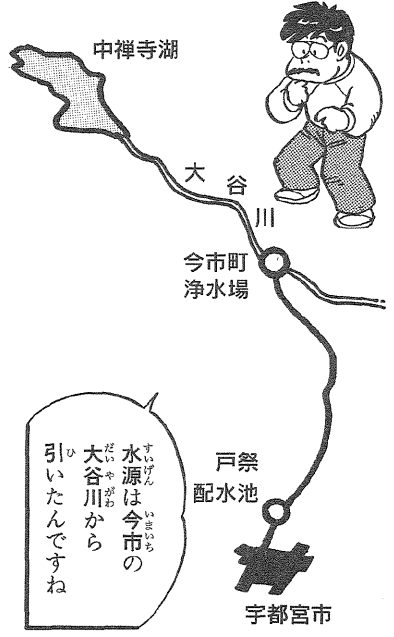


一九三三（大正二）年市は上水道の設置を決定する

井戸水が汚染されればたちまち病気はその井戸を使う地域に広がってゆく……

衛生を管理するためには上水道が不可欠であった

1916（大正5）年・宇都宮市水道部庁舎



水源は今市の大谷川から引いたんですね



これが大正期の都市づくりの始まりといえるだろう

足かけ四年もかかる大工事だ

市内水道管敷設工事

なんと四年の間に  
宇都宮管区だけで  
四個師団が新設  
編制されてますよ

日本陸軍は  
五七個師団にも  
膨張したんだよ



一九四一(昭和十六)年七月  
第五師団 中国中央部へ進攻

同年九月  
ガソリン 配給停止

一個師団の人数を  
一万五〇〇〇人として  
五七個師団で兵力  
八五万五〇〇〇人!

これに  
その他の  
兵種をあわせると  
一〇〇万以上の陸軍  
……!



そして運命の  
一九四一年二月八日

それに海軍が  
二〇万以上プラス  
されるんだ



一九三七(昭和十二)年七月  
「盧溝橋事件」から  
日中戦争が始まる

同年二月  
「南京事件」

※盧溝橋事件：北京郊外盧溝橋でもまた日中兩國軍の武力衝突 ※日独伊三国同盟：日本、ドイツ、イタリア三国の同盟



同年  
宇都宮管区で  
第一四師団、編制

一九三九(昭和十四)年  
第三師団および  
第四師団、編制  
一九四〇(昭和十五年)  
第五師団、編制

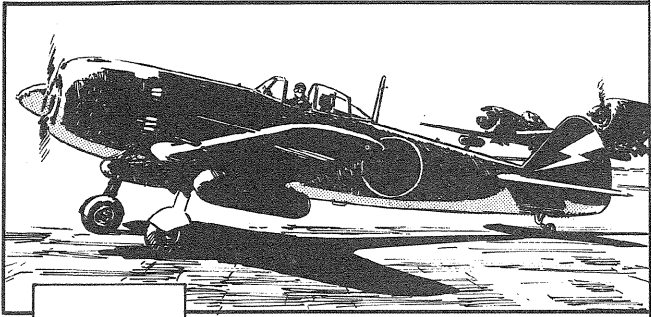
九月、第一四師団  
満州国子チハルに  
移駐する

いよいよ  
キナクさく  
なってきたぞ

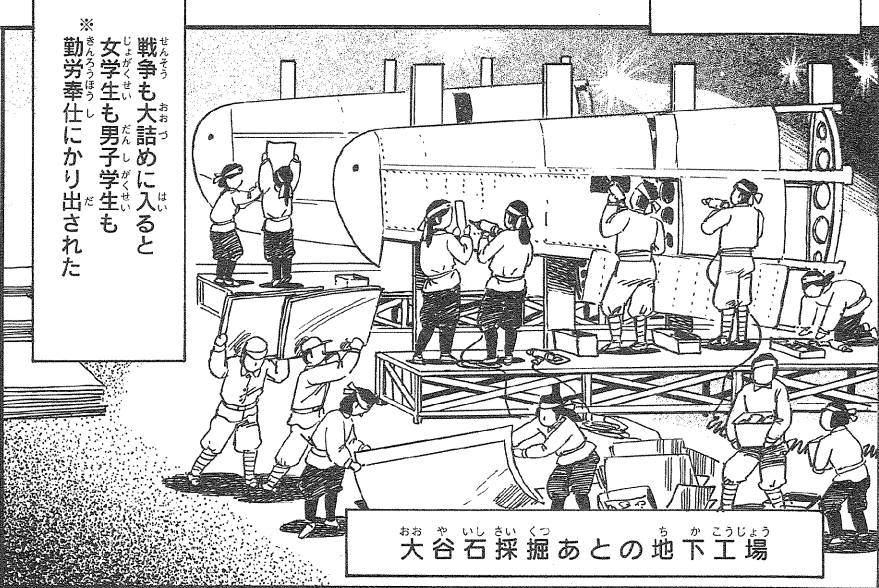
なんせ  
ヒトラーと  
仲間になったん  
ですからね

同年同月  
「日独伊三国同盟」が  
調印される

※疎開：都市の空襲をさげるため地方へ工場を移したり、一般の人が移ること  
※勤労奉仕：労働力不足のため学生や生徒を工場で働かせること



市の計画では一般企業を誘致するつもりだったが軍需産業が疎開して来たのである



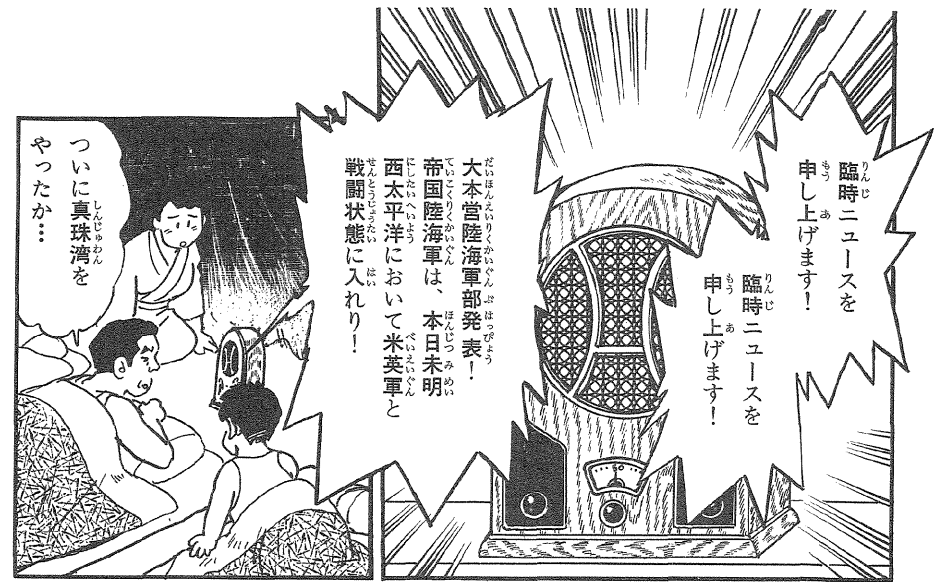
大谷石採掘あとの地下工場



※一九四五（昭和二〇）年  
灯火管制下の七月二日  
午後二一時過ぎ



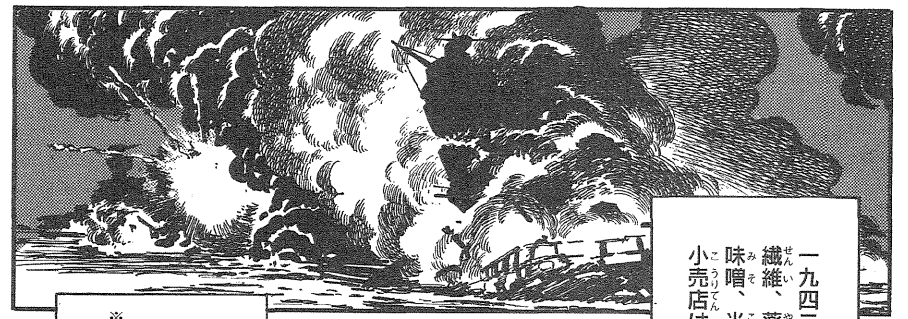
※灯火管制…夜間の空襲に備え、明りをおおいかくすこと



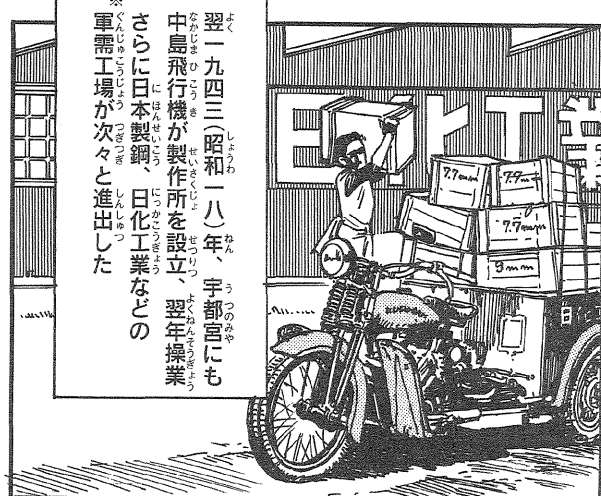
大本営陸海軍部発表！  
帝国陸海軍は、本日未明  
西太平洋において米英軍と  
戦闘状態に入れり！

臨時ニュースを  
申し上げます！  
臨時ニュースを  
申し上げます！

ついに真珠湾を  
やったか…



一九四二（昭和一七）年  
繊維、薬品、青果、魚介類  
味噌、米麦が配給統制され  
小売店は配給所となる



翌一九四三（昭和一八）年、宇都宮にも  
中島飛行機が製作所を設立、翌年操業  
さらに日本製鋼、日化工業などの  
軍需工場が次々と進出した



※軍需工場…兵器製造を目的とする工場





死者五二人  
重軽傷者一二八人  
被災者四万七九七六六

焼失家屋九一七三戸  
市街地焼失面積  
五〇パーセント



ひどい…ひどすぎる  
爆弾の下にいたのは  
大多数が一般人なんだ

中世以来  
宇都宮の壊滅を  
ぼくはいつたい何度  
目にしただろう…



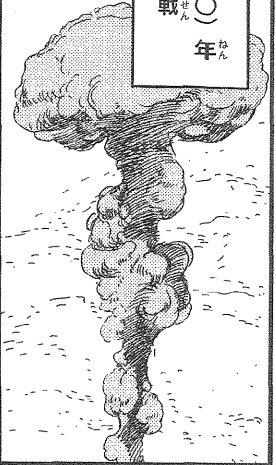
鹿島灘上空より飛来した  
B-29、一二五機の編隊は  
宇都宮市街地に焼夷弾の  
雨を降らせた

この頃の米軍の宇都宮空襲の  
目的は、工場を  
破壊することより  
市民の生活、生命  
戦意をうばうことが  
狙いであった…

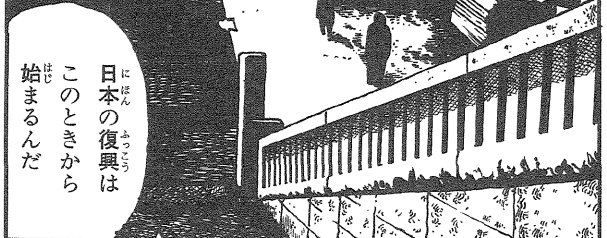
※焼夷弾…火災や高熱によって人と建物を破壊する爆弾



一九四五(昭和二〇)年  
八月十五日—終戦

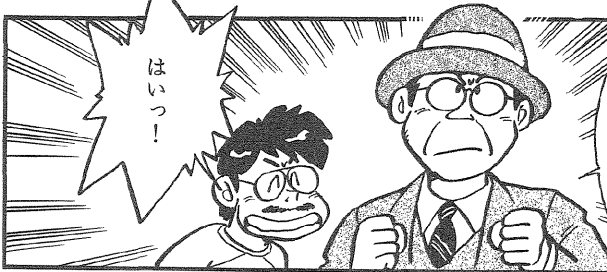


人間には  
自分も知らない  
粘り強い  
再生力がある



日本の復興は  
このときから  
始まるんだ

この過ちを  
二度と起こさない  
その魂への  
誓いこそが人間の  
英知なんだよ!



はいっ!

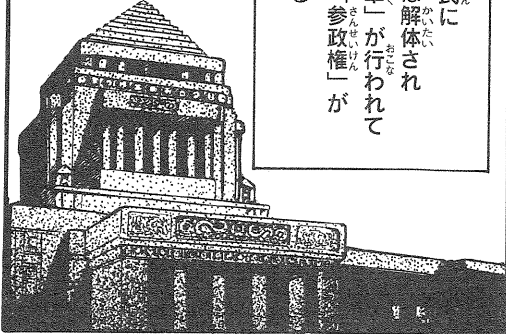
同年九月  
占領軍が  
宇都宮に進軍



一〇月四日  
日本は天皇制から  
占領下の民主主義  
国家となった

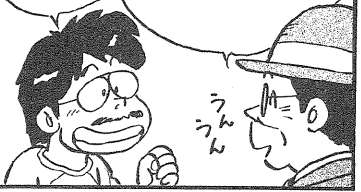


主権は国民に  
「財閥」は解体され  
「農地改革」が行われて  
婦人にも「参政権」が  
与えられる



それまで選挙権を  
得られなかった女性が  
民主主義によって  
男女同権となり  
社会的地位を確立した

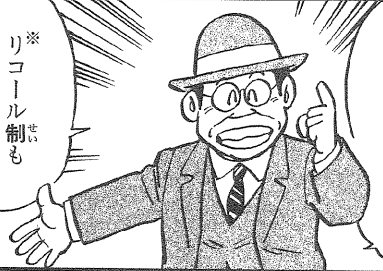
戦後の日本を  
象徴する出来事  
ですよ



民主政治が  
始まって、知事や  
市町村の首長も  
住民が直接選挙で  
選べるようになった

※リコール制も  
採用されて

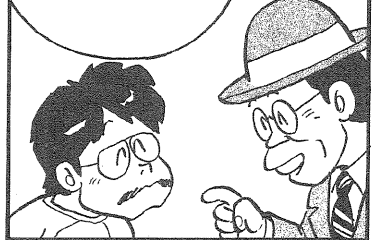
より住民サイドに  
近い地方自治が  
行われるように  
なったんだよ



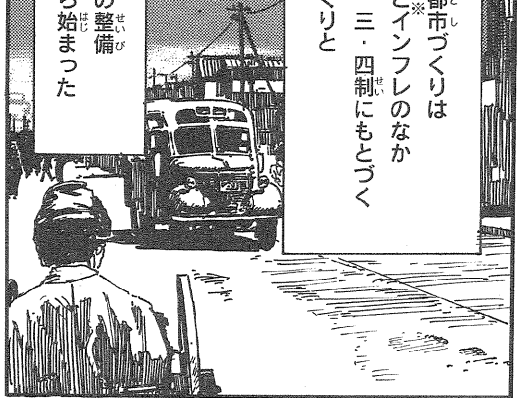
戦後の都市づくりは  
食糧難とインフレのなか  
六・三・三・四制にもとづい  
て学校づくりと

それまでの  
尋常小学校六年間の  
義務教育が  
小、中学校までの  
九年間になった

そしてもう一つが  
「教育改革」だ



道路網の整備  
拡張から始まった



※財閥解体…三井、三菱、住友など巨大財閥を分かつたこと  
※農地改革…地主小作制度をなくし自作農をつくつたこと

※リコール制…選挙で選ばれた代表が不適当と思われた時、解職を請求する制度  
※インフレ…通貨量が増加し物価が急激に上がる

一九五〇（昭和二五）年  
復興費用を得るための一策として  
市営競輪場が造られたが  
これは市の財政に大きく貢献した



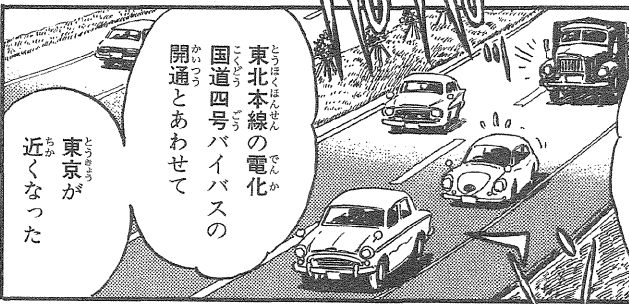
長い間渋滞の  
原因となって  
ますがね  
まあまあ

宇都宮の戦後復興は  
この競輪場の経営に  
負うところが大きい



昭和三〇年代に  
入って

宇都宮、東京間の  
手動即時通話が  
できるようになり



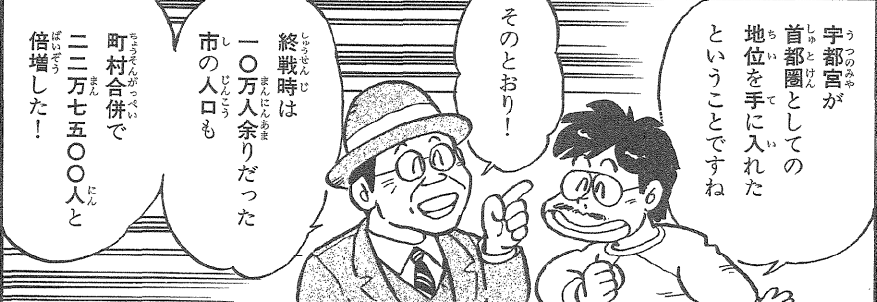
東京が  
近くなった

東北本線の電化  
国道四号バイパスの  
開通とあわせて

宇都宮が  
首都圏としての  
地位を手に入れた  
ということですね

そのとおり！

終戦時は  
一〇万人余りだった  
市の人口も  
町村合併で  
二万七五〇〇人と  
倍増した！



人口はいまや  
四三万人の  
大都市ですよ

終戦時  
四倍！！  
えっ  
三つの大学と  
三つの短大があつて  
教育も充実しています

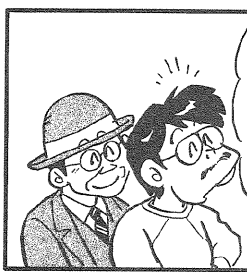
えっ  
どうやらこの先は  
ぼくが案内人に  
なった方がいい  
みたいですねえ



どれどれ  
わしらも参考に  
宇都宮の発展を  
見ておこうかの



あーっ  
おそろいで！



昭和四〇年代以降は  
戦前に果たせなかつた  
工業都市の形を整え  
文教都市として、また  
国際交流にも  
力を入れていきます



地 団 業 工 原 清

一九八四（昭和五九）年には  
「テクノポリス計画」が  
発表されました

※テクノポリス計画…産（産業）学（学術研究）住（住居）遊（ゆとり・憩い）が調和した活力と潤いのあるまちづくり

※手動即時通話…従来は、通話に数時間も待たされたが、即時に通話が可能となったこと



また一方で  
市民生活や文化の  
充実にむけ  
努力しているん  
ですからね!

市民のいこいの場  
ろまんちっく村  
(農林公園)や

キャンプのできる  
平成記念  
子どものもり公園が  
もうすぐできます

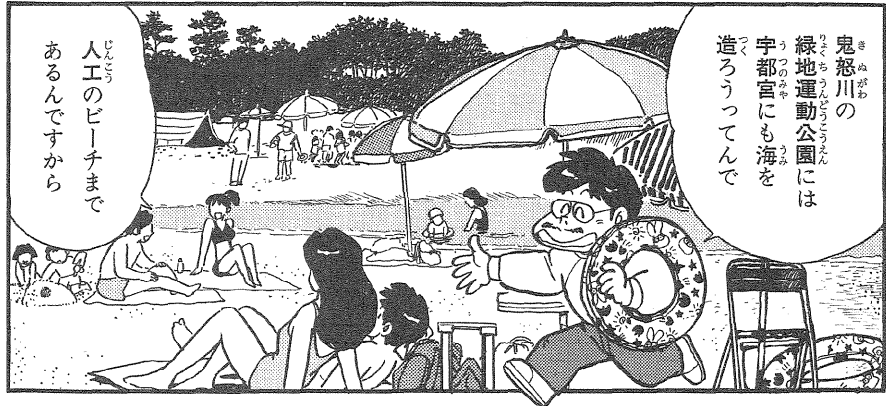
おお



自然と調和した  
新しい時代の  
美術館に—

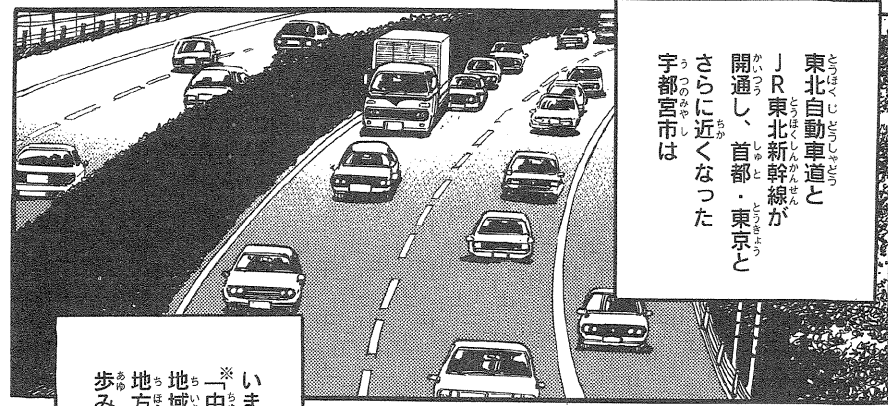
むむっ

ワールドカップ  
サイクルロード  
レース

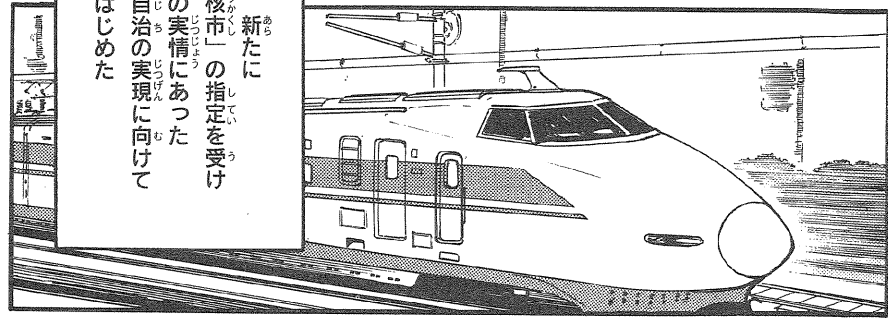


鬼怒川の  
緑地運動公園には  
宇都宮にも海を  
造ろうってんで

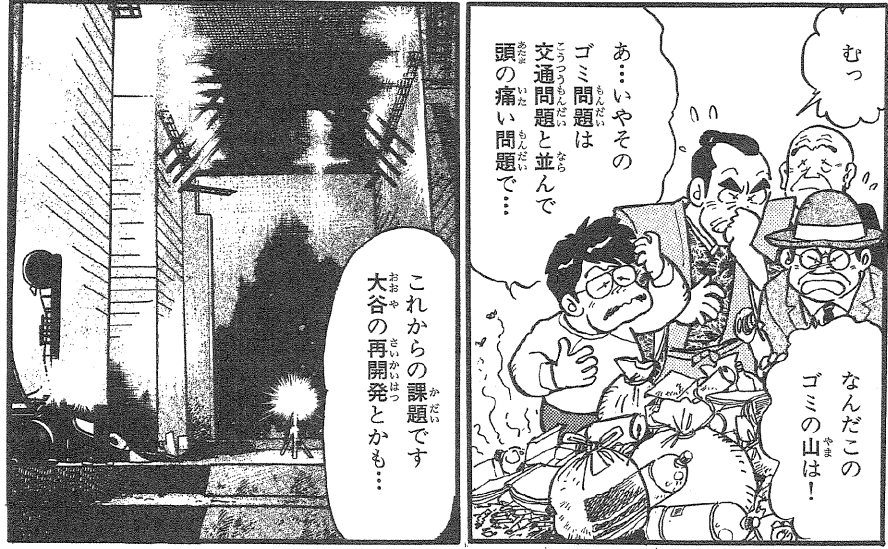
人工のビーチまで  
あるんですから



東北自動車道と  
JR東北新幹線が  
開通し、首都・東京と  
さらに近くなった  
宇都宮市は



いま、新たに  
「中核市」の指定を受け  
地域の実情にあつた  
地方自治の実現に向けて  
歩みはじめた



あ…いやその  
ゴミ問題は  
交通問題と並んで  
頭の痛い問題で…

なんだこの  
ゴミの山は—

これからの課題です  
大谷の再開発とかも…



# 宇都宮の歴史年表

- 男体山などが噴火し、関東ローム層が形成される
- 旧石器時代の人の生活が始まる（権現山北遺跡・瑞穂団地内遺跡・上の原遺跡）
- 県内最古の土器がつけられる（大谷寺洞穴遺跡）
- 竪穴住居がつけられる（宇都宮清陵高校敷地内遺跡）
- 広場を中心とした大型建物がつけられる（根古谷台遺跡）
- 縄文中期のムラがあらわれる（上欠遺跡・御城田遺跡・竹下遺跡）
- 後・晩期、低地にムラがつけられる（石川坪遺跡・刈沼遺跡）
- 稲作が始まる
- 弥生時代中期の土器が発見される（野沢遺跡）
- 市内各地に弥生時代後期のムラがつけられる（中原遺跡・天狗原遺跡・東川田遺跡）

# 関連する事項

- 宮城県高森遺跡で約五〇万年前の石器が発見される
- 氷河時代が終わり、豊かな森が形成され、縄文土器と弓矢が出現する
- 長崎県泉福寺洞穴・新潟県本ノ木遺跡
- 神奈川県夏島貝塚・福井県鳥浜貝塚等に全国各地に貝塚がつけられる
- 長野県尖石遺跡・千葉県加曾利貝塚
- 千葉県堀之内貝塚・青森県大洞貝塚
- 稲作と金属器が大陸から伝わり、弥生時代が始まる
- 二二九 邪馬台国の女王・卑弥呼が魏に使を送る



戦国時代 / 室町時代 / 鎌倉時代

- 古墳時代前期(四世紀)に大日塚・愛宕塚・権現山古墳と三基の前方後方墳がつくられる(茂原古墳群)
- 五世紀中頃、田川低地に前方後円墳があらわれる(笹塚古墳・塚山古墳・雀宮牛塚古墳)
- 六世紀後半、市内各地に古墳がつくられる(宮下古墳群・針ヶ谷古墳群・瓦塚古墳群・戸祭大塚古墳等)
- 長岡で横穴墓がつくられる(長岡百穴)
- 水道山で下野薬師寺や国分寺の瓦が焼かれる(水道山窯跡)
- 須恵器の本格的な生産が始まる(広表窯跡)
- 東山道が整備される(上野遺跡)
- この頃、大谷磨崖仏がつくられる
- 須恵器の生産が九世紀後半まで継続する(欠ノ下窯跡)
- 二荒山神社が現在の地に移る
- 宗円が下野に下り、陸奥の安倍氏平定を祈願する
- 宗円が二荒山神社の社務職となる
- 一八〇 宇都宮朝綱と畠山重能、京都で平氏に抑留される
- 宇都宮朝綱が東大寺に大仏の脇侍観音を寄進する。朝綱、公田横領の罪で土佐に流される
- 二〇五 宇都宮頼綱、謀反の嫌疑を受け出家、蓮生を号す
- この頃、『信生法師集』がでる
- 二三五 藤原定家が蓮生の山荘に和歌色紙を贈る
- 宇都宮氏一族が歌人として活躍する
- 二五九 『新〇和歌集』ができる
- 二八一 宇都宮貞綱らが九州に行き元軍の防備にあたる
- 二八三 「宇都宮弘安式条」が制定される
- 飛山城(竹下町)が築かれる
- 宇都宮景綱の歌集『沙弥蓮瑜集』このころできる
- 一三二 東勝寺に鉄塔婆(清嚴寺に現存)が建てられる
- 一三三 宇都宮公綱が四天王寺の楠木正成と戦う
- 関東各地に戦乱が続き、宇都宮の町も荒廃する
- 一三六 宇都宮氏綱・芳賀高名、上野・越後の守護職をめぐり、関東管領上杉憲顕と戦い敗れる
- 一三八〇 宇都宮基綱が裳原(茂原)で小山義政と戦って敗れる
- 一四〇五 宇都宮満綱が長楽寺銅造阿弥陀如来座像を奉納する(汗かき阿弥陀、一向寺に現存)
- 一四五五 宇都宮等綱が上杉房頭方について足利成氏と戦い、敗れて奥州白河に逃れる
- 一四九八 宇都宮成綱が二荒山神社を建て替える
- 一五二六 宇都宮忠綱、結城政朝と戦う。政朝とはかった叔父芳賀興綱に宇都宮城を奪われる
- 一五五七 芳賀高定が宇都宮城から壬生綱雄を追い、宇都宮広綱を城主にする

- 奈良県に前方後円墳の箸墓古墳がつくられる
- 日本列島各地に古墳がつくられる
- 巨大な前方後円墳つくられる
- 漢字や仏教が伝来する
- 六四五 大化の改新
- 七〇一 大宝律令の制定
- 七一〇 奈良に都を移す
- 七五二 東大寺の大仏ができる
- 七九四 平安京に都を移す
- 藤原氏が力をつよめる
- 九三五 平将門の乱
- 各地に武士がおこる
- 一六七 平清盛が太政大臣になる
- 一八五 平氏が滅びる
- 一九二 源頼朝が鎌倉幕府を開く
- 二一九 源実朝が暗殺される
- 二二一 承久の乱がおこる
- 二三二 御成敗式目制定される
- 二七四 元軍がせめてくる(文永の役)
- 二八一 ふたたび元軍がせめてくる(弘安の役)
- 二九七 御家人の窮乏を救うため、政令がだされる
- 一三三三 鎌倉幕府がほろびる
- 一三三六 南朝と北朝の対立が始まる
- 一三三八 足利尊氏が室町幕府を開く
- 一三九二 南朝と北朝が一つになる
- 一四〇四 幕府が明と貿易を始める
- 全国各地に土一揆がおこる
- 一四六七 応仁の乱がおこり、戦国の世となる
- 一五四三 鉄砲が日本に伝わる
- 一五四九 ザビエルがキリスト教を伝える

鎌倉時代 / 平安時代 / 奈良時代 / 古墳時代

- 古墳時代前期(四世紀)に大日塚・愛宕塚・権現山古墳と三基の前方後方墳がつくられる(茂原古墳群)
- 五世紀中頃、田川低地に前方後円墳があらわれる(笹塚古墳・塚山古墳・雀宮牛塚古墳)
- 六世紀後半、市内各地に古墳がつくられる(宮下古墳群・針ヶ谷古墳群・瓦塚古墳群・戸祭大塚古墳等)
- 長岡で横穴墓がつくられる(長岡百穴)
- 水道山で下野薬師寺や国分寺の瓦が焼かれる(水道山窯跡)
- 須恵器の本格的な生産が始まる(広表窯跡)
- 東山道が整備される(上野遺跡)
- この頃、大谷磨崖仏がつくられる
- 須恵器の生産が九世紀後半まで継続する(欠ノ下窯跡)
- 二荒山神社が現在の地に移る
- 宗円が下野に下り、陸奥の安倍氏平定を祈願する
- 宗円が二荒山神社の社務職となる
- 一八〇 宇都宮朝綱と畠山重能、京都で平氏に抑留される
- 宇都宮朝綱が東大寺に大仏の脇侍観音を寄進する。朝綱、公田横領の罪で土佐に流される
- 二〇五 宇都宮頼綱、謀反の嫌疑を受け出家、蓮生を号す
- この頃、『信生法師集』がでる
- 二三五 藤原定家が蓮生の山荘に和歌色紙を贈る
- 宇都宮氏一族が歌人として活躍する
- 二五九 『新〇和歌集』ができる
- 二八一 宇都宮貞綱らが九州に行き元軍の防備にあたる
- 二八三 「宇都宮弘安式条」が制定される
- 飛山城(竹下町)が築かれる
- 宇都宮景綱の歌集『沙弥蓮瑜集』このころできる
- 一三二 東勝寺に鉄塔婆(清嚴寺に現存)が建てられる
- 一三三 宇都宮公綱が四天王寺の楠木正成と戦う
- 関東各地に戦乱が続き、宇都宮の町も荒廃する
- 一三六 宇都宮氏綱・芳賀高名、上野・越後の守護職をめぐり、関東管領上杉憲顕と戦い敗れる
- 一三八〇 宇都宮基綱が裳原(茂原)で小山義政と戦って敗れる
- 一四〇五 宇都宮満綱が長楽寺銅造阿弥陀如来座像を奉納する(汗かき阿弥陀、一向寺に現存)
- 一四五五 宇都宮等綱が上杉房頭方について足利成氏と戦い、敗れて奥州白河に逃れる
- 一四九八 宇都宮成綱が二荒山神社を建て替える
- 一五二六 宇都宮忠綱、結城政朝と戦う。政朝とはかった叔父芳賀興綱に宇都宮城を奪われる
- 一五五七 芳賀高定が宇都宮城から壬生綱雄を追い、宇都宮広綱を城主にする

- 奈良県に前方後円墳の箸墓古墳がつくられる
- 日本列島各地に古墳がつくられる
- 巨大な前方後円墳つくられる
- 漢字や仏教が伝来する
- 六四五 大化の改新
- 七〇一 大宝律令の制定
- 七一〇 奈良に都を移す
- 七五二 東大寺の大仏ができる
- 七九四 平安京に都を移す
- 藤原氏が力をつよめる
- 九三五 平将門の乱
- 各地に武士がおこる
- 一六七 平清盛が太政大臣になる
- 一八五 平氏が滅びる
- 一九二 源頼朝が鎌倉幕府を開く
- 二一九 源実朝が暗殺される
- 二二一 承久の乱がおこる
- 二三二 御成敗式目制定される
- 二七四 元軍がせめてくる(文永の役)
- 二八一 ふたたび元軍がせめてくる(弘安の役)
- 二九七 御家人の窮乏を救うため、政令がだされる
- 一三三三 鎌倉幕府がほろびる
- 一三三六 南朝と北朝の対立が始まる
- 一三三八 足利尊氏が室町幕府を開く
- 一三九二 南朝と北朝が一つになる
- 一四〇四 幕府が明と貿易を始める
- 全国各地に土一揆がおこる
- 一四六七 応仁の乱がおこり、戦国の世となる
- 一五四三 鉄砲が日本に伝わる
- 一五四九 ザビエルがキリスト教を伝える

- 一五八五 北条氏直が宇都宮を攻め、城下に放火する
- 一五九二 宇都宮国綱が秀吉の命により朝鮮に出兵する
- 一五九七 宇都宮氏がほろびる
- 一五九八 蒲生秀行が宇都宮城代となる
- 一六〇〇 徳川秀忠、上杉景勝征伐のため宇都宮に入る
- 一六〇一 奥平家昌、宇都宮城主となる
- 一六〇四 徳川幕府が二荒山神社を造営する
- 一六一九 宇都宮城主・本多正純が城下を整備。領内総検地を始める
- 一六二二 秀忠日光社参、本多正純改易される。奥平忠昌、宇都宮に再入封する
- 一六六八 奥平忠昌死去。家臣・杉浦右衛門兵衛殉死する。忠昌の法要に刃傷事件起き、昌能山形へ国替えされる
- 一六七〇 西原・宝木十力新田の開発が始まる
- 一六七二 浄瑠璃坂の仇討事件起きる
- 一七一〇 戸田忠真、宇都宮城主となる
- 一七一六 忠真、老中へ就任する
- 一七四三 宇都宮宿に貫目改所つくられる
- 一七四九 松平忠祇、宇都宮城主として島原から入封
- 一七五三 宇都宮藩、上納米を五合摺に改める

- 一五七三 室町幕府がほろびる
- 一五八二 太閤検地・刀狩が始まる
- 一五九〇 豊臣秀吉が北条氏を滅ぼし、全国を統一する
- 一六〇〇 関ヶ原の戦いがおこる
- 一六〇三 徳川家康が江戸幕府を開く
- 一六三五 参勤交代の制度ができる
- 一六三七 島原の乱がおこる
- 一六三九 幕府が鎖国を行う
- 一六四九 農民へのふれ書きがだされる  
(慶安の御触書)
- 町人文化(元禄文化)が栄える
- 一七一六 徳川吉宗が享保の改革を始める

- 一七六四 宇都宮藩五合摺を六合摺に改め、これに反対する百姓一揆起こる(糶摺騒動)
- 一七七四 宇都宮城主・松平忠恕、島原へ転封。戸田忠寛、島原から入封する
- 一七八九 宇都宮宿大火
- 一八一 宇都宮藩「善行録」を刊行する
- 一八一四 宇都宮に大火がおこる
- 一八一五 宇都宮藩、藩学「修道館」・「潔身館」を設置する
- 一八三二 宇都宮に大火がおこる
- 一八四三 將軍・家慶、日光社参。宇都宮城にとまる
- 一八五五 桑島新田の開発が始まる
- 一八五九 宝木用水の工事が始まる
- 一八六〇 大橋訥菴「政権恢復秘策」を著す
- 一八六三 宇都宮藩、山陵を修理する
- 一八六四 水戸天狗党、宇都宮藩の支援を求める
- 一八六五 宇都宮藩、減封と奥州棚倉への国替えを命ぜられるが、山陵修補成功により許される
- 一八六八 戊辰戦争で宇都宮の大半が焼ける

- 一七七四 杉田玄白らが「解体新書」をあらわす
- 一七八二 天明の大きなおこる
- 一七八七 松平定信が寛政の改革を始める
- 江戸を中心とする文化(化政文化)が栄える
- 一八三三 天保の大きなおこる
- 各地に百姓一揆がおこる
- 一八四一 水野忠邦が天保の改革を始める
- 一八五三 ペリーが浦賀に来航する
- 一八五四 日米和親条約が結ばれる
- 一八五八 日米修好通商条約が結ばれ、安政の大獄がおこる
- 一八六〇 桜田門外の変がおこる
- 一八六七 徳川慶喜が政権を朝廷に返し、江戸幕府の政治が終わる
- 一八六八 戊辰戦争がおこる。五方条の御誓文が出される



平成時代 / 昭和時代

- 一九四五 空襲をうけ市街地の大半が焼失する
- 一九四七 地方自治制下初の市長選挙が行われる
- 一九四九 宇都宮大学ができる
- 一九五八 東北本線宇都宮・大宮間が電化される
- 一九六一 宇都宮工業団地の分譲が開始される
- 一九七二 市章の規格及び市旗を制定する
- 一九八〇 東北自動車道岩槻・宇都宮間が開通する
- 一九八二 ニュージージーランドのマヌカウ市と姉妹都市になる
- 一九八四 中国のチチハル市と友好都市になる
- 一九八六 現在の市庁舎ができる
- 一九八八 フランスのオルレアン市と姉妹都市になる
- 一九九〇 東北本線上野・黒磯間に「宇都宮線」の愛称が付く
- 一九九二 世界選手権自転車競技大会ロード競技が開かれる
- 一九九二 アメリカのタルサ市と姉妹都市になる
- 一九九五 イタリアのピエトラサンタ市と文化友好都市になる
- 一九九六 市制一〇〇周年を迎える。中核市になる

- 一九四一 太平洋戦争がおこる
- 一九四五 広島と長崎に原子爆弾が投下される。ポツダム宣言を受け入れて太平洋戦争がおわる
- 一九四六 日本国憲法が公布される
- 一九五一 サンフランシスコ平和条約が結ばれる。日米安全保障条約が結ばれる
- 一九五六 国際連合に加盟する
- 一九六四 東海道新幹線が開通する。オリンピック東京大会が開かれる
- 一九七〇 日本万国博覧会が大坂で開かれる
- 一九七二 沖縄が日本に復帰する
- 一九七八 日中平和友好条約が結ばれる
- 一九八二 東北・上越新幹線が開通する
- 一九九二 ソ連が解体する

昭和時代 / 大正時代 / 明治時代

- 一八七一 大崎商舎が石井町に建てられる
- 一八七二 宇都宮・東京間に乗合馬車が開通する
- 一八七三 宇都宮県、栃木県と合併する
- 一八八四 栃木県庁、栃木から宇都宮に移転する
- 一八八五 東北本線大宮・宇都宮間が開通
- 一八八九 宇都宮町制施行される
- 一八九六 宇都宮が市となる
- (戸数/六九九一戸、人口/三万五二三三人)
- 一八九九 市内に初めて電灯がつく
- 一九〇六 市内に電話が開通する
- 一九〇七 第一四師団司令部の設置が決定する
- 一九二二 旭町に市庁舎ができる
- 一九二六 水道の給水を開始する
- 一九二七 市内バスが運行される
- 一九二二 宇都宮高等農林学校創設
- 一九二五 市立旭病院が竣工する
- 一九二七 市立八幡山公園を開設する
- 軍道(桜通り)の桜並木が花見の名所となる
- 一九三二 東武鉄道宇都宮線が開通する
- 一九三三 新国道(一一九号)が開通する

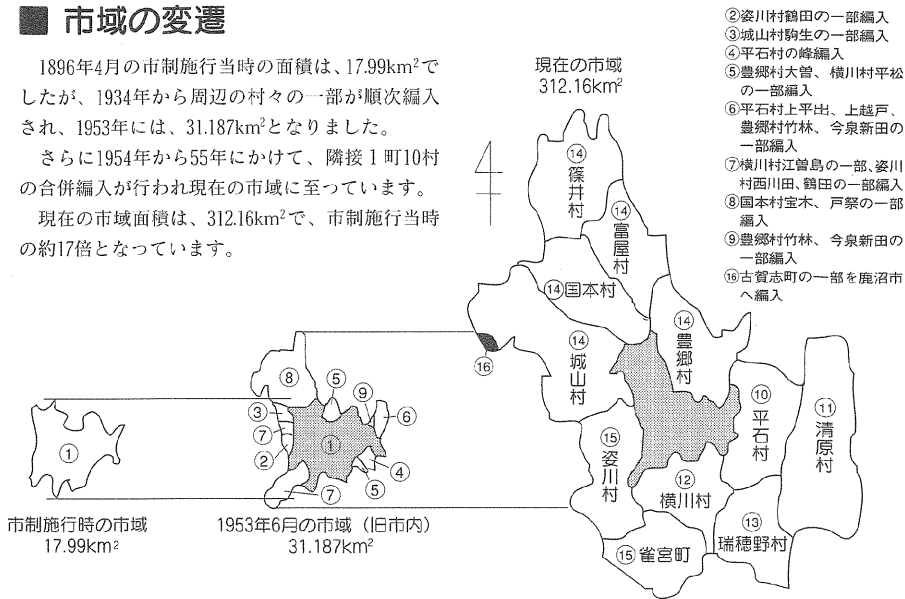
- 一八六九 版籍を奉還する
- 一八七一 廃藩置県を行う
- 一八七二 学校の制度を定める
- 一八七三 地租改正を行う。徴兵令が実施される
- 一八八九 大日本帝国憲法が公布される
- 一八九〇 第一回衆議院議員選挙が行われる。帝国議会が開かれる
- 一八九一 東北本線上野・青森間全線が開通する
- 一八九四 日清戦争がおこる
- 一九〇四 日露戦争がおこる
- 一九一〇 韓国の併合が行われる
- 一九二二 関東大震災がおこる
- 一九二五 普通選挙制度ができる
- 一九二八 第一回普通選挙が行われる
- 一九三一 満州事変がおこる
- 一九三三 国際連盟を脱退する
- 一九三七 日中戦争がおこる

## 市域の変遷

1896年4月の市制施行当時の面積は、17.99km<sup>2</sup>でしたが、1934年から周辺の村々の一部が順次編入され、1953年には、31.187km<sup>2</sup>となりました。

さらに1954年から55年にかけて、隣接1町10村の合併編入が行われ現在の市域に至っています。

現在の市域面積は、312.16km<sup>2</sup>で、市制施行当時の約17倍となっています。



# 宇都宮

## わたしたちのまち

# 都

## うつのみや

# 宮

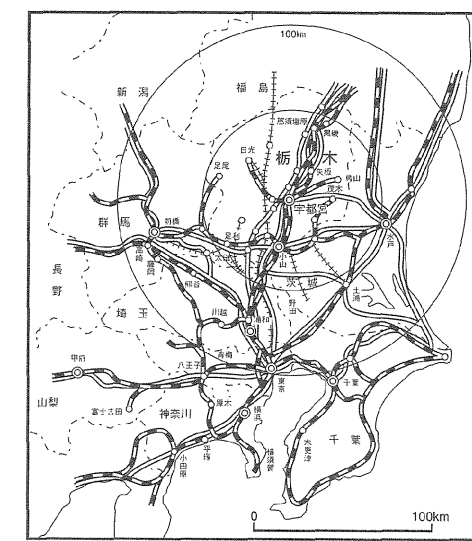


## 宇都宮市の位置

宇都宮市は、首都東京から北へ約100km、栃木県のほぼ中央に位置しています。

北西に日光連山、北に那須連山を望み、南には広大な関東平野がひらけ、市内東部に鬼怒川が流れる、美しく豊かな自然に恵まれたまちです。

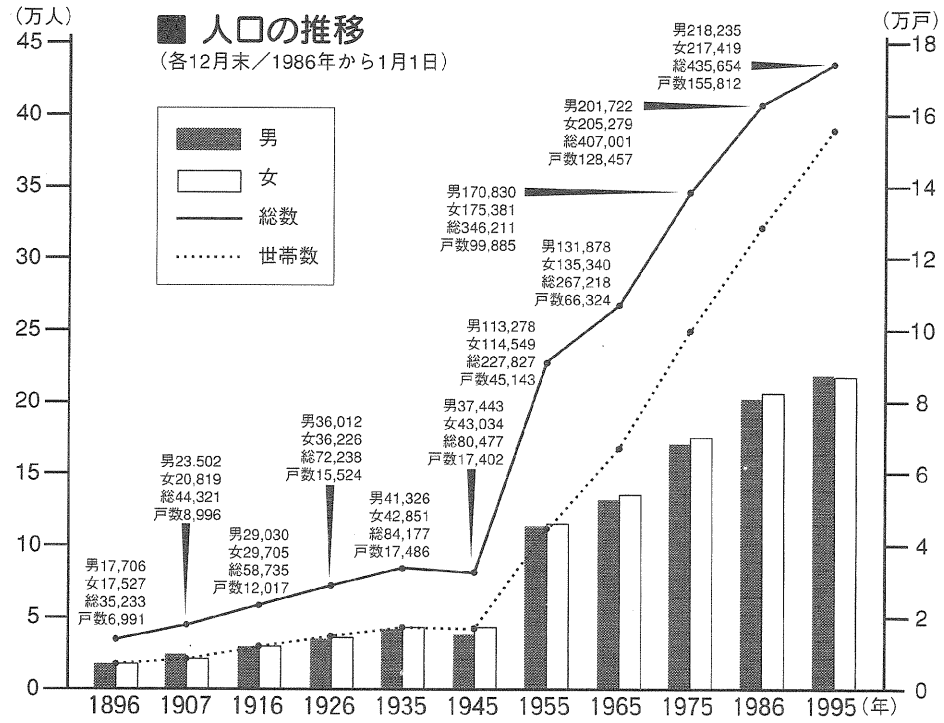
また、栃木県の県庁所在地としてだけでなく、経済や文化などの機能が集積する北関東の拠点都市として発展を続けています。



- ◇市制施行 1896年4月1日
- ◇位置 東経139°53'9"  
北緯 36°33'10"  
(宇都宮市役所が基準)
- ◇面積 312.16km<sup>2</sup>
- ◇周囲 101km
- ◇広がり 東西 23.6km  
南北 27.9km
- ◇海拔 116.07m (宇都宮市役所が基準)
- ◇人口 436,254人  
男 218,332人 女 217,922人
- ◇世帯 156,838世帯  
(1996年1月1日現在)

## 人口の推移

(各12月末/1986年から1月1日)



# 宇都宮市民憲章

1980年4月1日制定

宇都宮市は、恵まれた自然と古い歴史に支えられ、  
二荒の森を中心に栄えてきたまちです。  
このふるさとに誇りをもち、みんなの力で豊かな未来を築くため、  
市民の誓いを定めます。

◇  
1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。

◇◇  
2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。

◇◇◇  
3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくります。

## 市章

1911年2月14日制定



この市章は、かつて宇都宮城が龜が丘城といわれたのにちなみ、龜甲形と宇都宮の「宮」の文字を図案化したもので、古い歴史を持つ郷土の万年にわたる栄光と限りない発展とを象徴するものです。

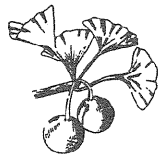
## 市花 さつき

1970年4月1日制定



## 市の木 イチヨウ

1986年4月1日制定



## 市民のくらし

1996年1月1日現在

人口密度  1 km <sup>2</sup> に1,398人	世帯  1世帯平均2.78人	出生  1日12.6人	死亡  1日7.2人
結婚  1日8.7組	離婚  1日2.2組	転入  1日59.1人	転出  1日59.0人
市税  市民1人あたり170,007円	行政費  市民1人あたり317,356円	市職員  市民107人に1人	消防職員  市民1,019人に1人
医師  市民644人に1人	教員  児童・生徒数21人に1人	上水道  1人1日あたり418ℓ	交通事故  1日10.5件
火災  1日0.5件	ごみ処理  1日551 t	し尿処理  1日291ℓ	商店  21.5世帯に1店



## ●監修者紹介

**阿 部 昭 (あべ あきら)** 宇都宮市上小池町在住

1943年足利市生まれ、東京教育大学文学部史学科卒業

現在、国士館大学文学部教授、地方史研究協議会委員、栃木県歴史文化研究会常任委員長  
主な著書／『近世村落の構造と農家経営』『小貫万右衛門』共著として『天保期の政治と社会』『図説・栃木県の歴史』『栃木県歴史人物事典』など多数

**石 川 速 夫 (いしかわ はやお)** 宇都宮市大寛2丁目在住

1931年宇都宮市生まれ、東京教育大学文学部国文科卒業、中世文学専攻

現在、栃木県生涯学習振興財団理事長

主な著書／『新式和歌集』共著として『宇都宮市史(中世)』『壬生町史』『栃木の文学史』『栃木県神社誌』『栃木県教育史』『栃木県歴史人物事典』『栃木県大百科事典』『世界山岳百科辞典』『ふるさとの文学・栃木』など多数

**石 下 眞 (いしげ まこと)** 宇都宮市上大曾町在住

1935年宇都宮市生まれ、宇都宮大学学芸学部卒業

前宇都宮市立錦小学校校長、前宇都宮市小学校教育研究会社会部会長

主な著書／共著として『史跡と人物でつづる栃木県の歴史』分担執筆として『新社会科指導法事典』『新しい社会科よい授業の条件Q&A』など多数

**大 嶽 浩 良 (おおたけ ひろよし)** 宇都宮市今宮3丁目在住

1945年宇都宮市生まれ、横浜市立大学文理学部人文学科日本史課程卒業

現在、県立真岡女子高等学校教諭

主な著書／共著として『宗教・民衆・伝統』『図説・栃木県の歴史』『おはなし歴史風土記・栃木県』(以上共著)分担執筆として『藩史大辞典・関東編』『真岡市史』など多数

**橋 本 澄 朗 (はしもと すみお)** 芳賀郡益子町七井在住

1945年益子町生まれ、宇都宮大学教育学部卒業

現在、(財)栃木県埋蔵文化財センター大規模調査班長

主な著書／『木葉底の基礎的研究』『間仕切住居に関する覚書』『古墳時代への移行期の東国社会』『下野における平安時代の仏教文化の展開について』(論文)共著として『図説・栃木県の歴史』『南河内町史』など多数

**山 吉 泰 夫 (やまよし やすお)** 宇都宮市若草4丁目在住

1936年水戸市生まれ、宇都宮大学学芸学部卒業

前宇都宮市立宝木中学校校長、前宇都宮市中学校教育研究会社会部会長

主な著書／共著として『中学校社会科授業技術入門』分担執筆として『栃木県大百科事典』など多数

## ●漫画家紹介

**広 井 て つ お (ひろい てつお)**

本 名／広井哲雄(ひろい てつお)

生年月日／1950年生まれ

住 所／東京都文京区小石川

岡山県立西大寺高校卒業後、サラリーマンを経て、漫画家村野守美氏に師事。アシスタントとして漫画制作に取り組む。

昭和50年月刊漫画専門誌『COM』で「小さな世界」を発表してデビュー。手塚治虫氏が主宰する手塚プロの制作に携わるなど、本格的に活躍を始める。

主な作品／

漫画「90年代の日本」などハウツーものや「W1ララバイ」「ライダーズラブソディ」「西大寺ぶるうす」など。

## ●シナリオライター紹介

**島 遼 伍 (しま りょうご)**

本 名／佐藤日出男(さとう ひでお)

生年月日／1957年生まれ

住 所／宇都宮市中一の沢町

栃木県立氏家高校を経て、大正大学英文科を卒業。

県芸術祭文芸部門創作の部で準文芸賞3回、同奨励賞3回、宇都宮市民芸術祭文芸部門創作の部で奨励賞を4回受賞

主な作品／

『陰謀の城—真説宇都宮釣天井—』『改易の城—下野宇都宮氏断絶秘話—』『“戦国”下野落城物語』『“下剋上”下野落城悲話』『古城水滸伝』など。『史跡めぐり 栃木の城』の監修も、てがける。

◆参考資料・文献

- 『栃木県史』  
『宇都宮市史』  
『改訂うつのみやの歴史』  
『宇都宮興廃記』  
『ふるさと栃木県の歩み』
- 『下野国誌』 下野新聞社  
『栃木県の歴史』 山川出版社  
『栃木県歴史年表』 下野新聞社  
『図説・栃木県の歴史』 河出書房  
『日本の名族』 新人物往来社  
『物語藩史』 新人物往来社  
『宇都宮の歴史』 落合書店  
『物語・栃木県史』 栃木新聞社  
『戊辰戦争事典』 新人物往来社  
『栃木県の百年』 山川出版社

## まんが うつのみやの歴史

1996年4月1日発行

漫 画 広井てつお  
シナリオ 島 遼伍  
発 行 宇都宮市制100周年記念事業実行委員会  
企画・監修 記念出版編集委員会  
制 作 下野新聞社  
印 刷 松井ピ・テ・オ・印刷

© 宇都宮市 1996